

平成20年度
財団法人JKA補助事業

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」
実施報告書

財団法人コンピュータ教育開発センター



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。



「はじめに」

パソコンを使ったインターネットの利用や、子どもたちの携帯電話の利用が急速に進み、情報化の恩恵を子どもたちも日常的に享受できるようになってきた。学校の調べ学習では、既にインターネットの検索サイトが一番のツールとなり、昔は困難であった遠隔地の子どもたちとの共同学習も非常に簡単に行えるようになった。また、高校生にとって、携帯電話は「ケータイなしでの生活なんて考えられない！」と言われるほど重要なツールとなり、今や子どもたちのコミュニケーションの中心にケータイメールが存在するとさえ言われている。

しかし、このような情報化の光の部分の広がりと共に、情報化の陰の部分が子どもたちに襲いかかるようになってきた。いわゆる「ネットいじめ」や、出会い系サイト・ブログ・プロフなどで出会った見知らぬ人と直接会ってしまったために性犯罪・恐喝などに巻き込まれる事件、ワンクリック詐欺や架空請求など、子どもたちが被害者になった事件が毎日のように報道され、学校現場でも日常的な問題となっている。

また、子どもたちはこのような被害者になるだけでなく、「ネットいじめ」を行ったり、著作権や肖像権の侵害、携帯電話のマナー違反、ウィルスや迷惑メールの拡散、掲示板での誹謗中傷などを行ったりして、知らず知らずのうちに加害者になってしまっていることも数多くある。

このような情報化の陰の部分の防止するための情報モラル教育・情報セキュリティ教育は、これまで学校において子どもたちを対象として行うことが中心であった。しかし、子どもたちがこれらの陰の部分に出会うのは、フィルタリングで守られている学校ではなく、学校の行き帰りや、家庭、友達の家など、学校外であることがわかっている。このような学校外での子どもたちの様子に目配りできるのは、保護者や地域住民などの大人たちである。

保護者の方たちにも、インターネット上の事件・事故の報道を耳にしてはいるものの、「まさか、自分の子どもが...」「携帯電話は緊急連絡用の音声通話ツール」だからと安心している場合や、「危険があることはわかっているけれど、具体的にどうして良いのかわからない」と対応したくても対応できない場合があるようである。

本事業は、このような事態を解消するため、本セミナー検討委員会や学校が、子どもたちだけでなく、保護者や地域住民の方たちを対象として情報モラルセミナーを行い、子どもたちが安心して情報社会の光の部分を楽しみ、陰の部分を避けて、安全・安心の下でネット社会を生きていけるようにするものである。

親子を対象とした情報モラル・情報セキュリティセミナーを全国展開し、子ども用テキストと保護者用テキストを開発したのは本事業が初めてで、多くの方面から期待を寄せられています。本報告書は、事業初年度の活動状況、成果と課題を明らかにし、今後の事業の発展に資するためにまとめたものである。

本事業の推進にあたって、多大なるご協力をいただいた、財団法人JKA、各地の教育委員会・学校に、深く感謝の意を表すると共に、本報告書が子どもたちが健全にネット社会で生きていくために活用されれば幸いである。

平成21年3月

財団法人 コンピュータ開発センター

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」検討委員会

委員長 藤 村 裕一

- 目 次 -

1 . 事業概要	P 1
(1) 事業の目的	
(2) 事業の内容	
(3) 事業の経過	
2 . テキストの開発	P 4
(1) テキスト構成	
(2) 子ども向けテキストの特徴	
(3) 保護者向けテキストの特徴	
(4) 全文の紹介	
(5) 利用状況 (平成 2 1 年 2 月 現在)	
3 . セミナーの実施	P 1 0
(1) セミナー内容	
(2) 開催形態	
(3) 開催地報告	
4 . アンケート結果分析	P 1 7
I 小学生対象アンケート	
(1) パソコン、インターネットの利用について	
(2) インターネット利用時の約束について	
(3) 携帯電話の使用について	
(4) 携帯電話利用時の約束について	
(5) ネット・メディア使用傾向	
(6) セミナーについて	
II 中学生対象アンケート	
(1) パソコン、インターネットの利用について	
(2) インターネット利用時の約束について	
(3) 携帯電話の使用について	
(4) 携帯電話利用時の約束について	
(5) ネット・メディア使用傾向	
(6) セミナーについて	
5 . セミナーを終えての感想と今後の課題	P 2 7
6 . まとめ - 今後の課題	P 4 4

附 録 : アンケート質問票

アンケート集計結果

1. 事業概要

(1) 事業の目的

IT社会の発展により日常生活が便利になる反面、ハッカーによる被害や出会い系サイトを利用した犯罪などの問題が発生しており、子どもたちが、インターネットや携帯電話の使用により、トラブルに巻き込まれる例がでてきている。そうした中、学校や企業の場合と異なり、家庭では学習の機会が少なく、今後さらにIT社会の発展を図るためには、IT弱者ともいえる子どもと家庭に、ITのメリットを認識してもらうと同時に、被害に遭わないための正しい知識を持ってもらうことが重要となっている。

本事業は、子どもたちがIT社会に正しく対応できるようになることを目的として、子どもとその親を対象に情報モラル・セキュリティに関するセミナーを実施するものであり、同時に家庭でのコミュニケーションの題材、学校の先生が保護者と子どもを指導するための一助となる情報を提供するものである。

(2) 事業の内容

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」で使用するテキストの開発と全国5地域でのセミナーの実施。

ア. 委員会の設置

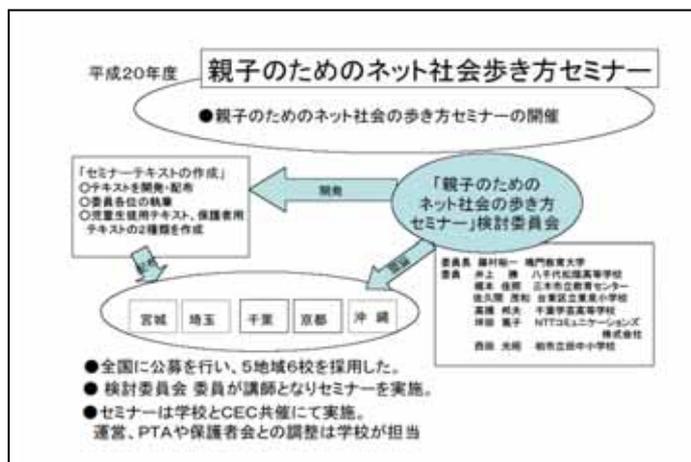
有識者による委員会を設置、委員会は全6回開催

開催地の選定、セミナーテキストの検討、セミナー講師、報告書執筆等を実施

委員名簿

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学
委員	井上 勝	八千代松陰高等学校
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	佐久間 茂和	台東区立東泉小学校
	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
	坪田 篤子	NTTコミュニケーションズ株式会社
	西田 光昭	柏市立田中小学校

実施概要図



イ．セミナー開催に向け、新規にテキストを開発

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」テキスト作成にあたっての主な検討結果は次のとおり。

- ・子ども向けテキストと、子ども向けのテキストに保護者向けページを追加した保護者向けテキストの2種類を作成した。
- ・子ども向けテキストの情報社会のプラス面、情報社会のマイナス面の見開きページでは、プラス面とマイナス面が対照できるようにするとともに、「最初に考えたこと」、「学んで考えたこと」などを記入できるワークシートを設け、後で親子の間で話し合いのきっかけになるように工夫をした。

ウ．セミナー実施

9地域10校からの申込みがあり、6校を選定した後、講師について人選を行った。

採択された開催地及び講師一覧

	申請者	学校種別	申込種別	開催予定日	講師
1	宮城県仙台市立東華中学校	中学校	学校	平成20年12月18日(木) 13:35～15:25	藤村委員長
2	宮城県白石市立南中学校	中学校	学校	平成20年12月17日(水) 14:30～16:30	藤村委員長
3	千葉県松戸市立六実小学校 PTA	小学校	PTA	平成20年11月8日(土) 10:00～12:00	井上委員 梶本委員
4	埼玉県新座市立新座小学校	小学校	学校	平成20年12月2日(火) 13:35～16:00	佐久間委員
5	京都府木津川市立泉川中学校	中学校	学校	平成20年11月7日(金) 13:40～16:30	藤村委員長 坪田委員
6	沖縄県糸満市立光洋小学校	小学校	学校	平成20年11月13日(木) 10:40～12:20	藤村委員長 西田委員

なお、セミナーを円滑に進めるため、また、内容の充実を図るため下記工、才を実施した。

エ．事前確認

選定された学校に事前に出向き、学校関係者とセミナーの実施方法、アンケート内容、スケジュールを調査した。

オ．開催地アンケートの実施

- ・質問項目を事務局で整理した後、各開催地からヒアリングした要望を反映させた。
- ・アンケートは今後インターネットや携帯がさらに普及した時の参考となるよう、IT活用の安全・安心についての子どもの現状の把握、保護者の考え方などを調査することとした。

(3) 事業の経過

平成20年6月12日	「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」 検討委員会設置・有識者への委員委嘱
6月24日	第1回検討委員会開催
7月10日	親子のためのネット社会の歩き方セミナー開催地公募開始
7月22日	第2回検討委員会開催 テキスト執筆内容の検討
8月26日	第3回検討委員会開催 セミナー開催地選定 5地域6校採択 小学校3校、中学校3校
8月26日	親子のためのネット社会の歩き方セミナー開催地採択結果通知
9月13日	第4回検討委員会開催 テキスト原稿確認及び開催地アンケート検討 セミナー講師の選任
11月 1日	「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」テキスト完成。Web掲載開始
11月 7日	京都府木津川市立泉川中学校セミナー開催
11月 8日	千葉県松戸市立六実小学校セミナー開催
11月13日	沖縄県糸満市立光洋小学校セミナー開催
12月 2日	埼玉県新座市立新座小学校セミナー開催
12月17日	宮城県白石市立南中学校セミナー開催
12月18日	宮城県仙台市立東華中学校セミナー開催
平成21年1月21日	第5回検討委員会開催 開催地アンケートの分析等 実施報告書執筆分担について検討
2月25日	第6回検討委員会開催 報告書とりまとめ、今後の課題等検討
3月31日	報告書公開

2. テキストの開発

(1) テキスト構成

子ども向けテキストは表紙から裏表紙までの20ページ構成とした。

保護者向けテキストは子ども向けテキスト20ページに加えて、保護者向けテキスト12ページを後ろに追加し全32ページ構成とした。

子ども向けテキストの裏表紙Aには、子どもが何か困ったことがあったときに参照できるように、相談先や連絡先を入れたほか、県のサイバー警察、県のいじめ相談室などの地域ごとの書き込みが行えるような表を入れた。

保護者向けテキストの裏表紙Bにも、保護者が相談できるような連絡先や参考サイトのURLを記載した。



子ども向けテキストの裏表紙A



保護者向けテキストの裏表紙B

(2) 子ども向けテキストの特徴

学校現場において、情報モラル教育の時間を授業として数多く特設するのは困難な状況にある。限られた時間で少ない事例を扱っても、その他数多くの事例に応用できる知識・思考力・判断力を培うため、子ども向けテキストでは中心事例 関連するその他の事例 判断に必要な知識・見方や考え方のポイントを組み合わせ構成した。

また、授業時間内で全事例を取り扱えなくても、空き時間や帰宅後などに自主的に読んでもらえるよう、マンガを交えたビジュアルな構成とした。

なお、内容は、「ネット社会の光と影のオリエンテーション」「被害者にならないために」「加害者にならないために」「ネット社会での生き方の見つめ直し」の4部構成とした。

また、子ども向けテキストでは小学校4年生以上で学習する漢字にはルビをふるなど配慮している。

情報社会のプラス面・・・見開き2ページ構成



情報社会のマイナス面・・・見開き2ページ構成



プラス面とマイナス面はほぼ同じ場面にし、ページをめくると、便利に活用している場面が加害者や被害者になっている場面になっている。

対比させることによって正しく使っていればこのような良い場面だが、一つ使い方を間違える

とこんな場面になるということを子ども達にも捉え易いよう工夫をした。

また、セミナーの中で、あるいは授業の中で子ども達がどう考えたのかを読み取れるようにプラス面の見開き（2～3ページ）にはセミナー前に思っていたことを書き、マイナス面の見開き（4～5ページ）にはセミナーの後で思ったことを書けるメモ欄をコーナーに作った。

被害者にならないために・被害にあったら・・・6項目6ページ構成。

ネットで出会ったその人は、本当に子どもなの？

<ポイント>

- ・出会い系サイトで知り合った人とは、さそわれても実際に会わない。
- ・直接会ったことがない人に、自分の電話番号やメールアドレスは教えない。

名前や住所、電話番号の入力は ちょっと待った！

<ポイント>

- ・入力する前に、信用できるサイトかどうか確かめよう。
- ・よくわからないときは、お家の人に見てもらおう。

ネット上には大人向けの情報がいっぱい！

<ポイント>

- ・お家の人に、ケータイ・パソコンにフィルタリングを設定してもらおう。
- ・変なサイトだと思ったら、画面の「戻る」や「閉じる」ボタンをクリック。
- ・18歳以上かどうかの確認画面では、必ず「18歳未満」を選ぶ。

「無料」の文字にはあまいワナが！

<ポイント>

- ・いきなり「登録料を払って」と表示されても、とことん無視する。
- ・連絡先が書かれていても、電話やメールは絶対に返さない。

知らない人からのメールは無視！

<ポイント>

- ・ケータイでは、「受信/拒否設定」をする。
- ・パソコンでは、「迷惑メール対策サービス」を利用する。
- ・知らない人からのメールには、絶対返信しない。
- ・メールに書かれているリンクをクリックしない。

えっ、ワタシが？ ネットいじめにあってるの！？

<ポイント>

- ・悪口まがいの書き込みをみても、相手にしない。
- ・すぐに反応して、むやみに反対意見を書き込まない。

加害者にならないために・加害者になってしまったら・・・7項目7ページ構成

えっ、ボクが？ ネットいじめの張本人！？

<ポイント>

- ・面と向かって言えないようなことは書き込まない。
- ・自分の名前を隠して相手の悪口を書いたりしない。

いつでもどこでもケータイ！？

<ポイント>

- ・お家の人と相談して、ケータイの使用時間を決める。
- ・公共の場所では、まわりの人の迷惑にならないようにする。

人の写真を勝手に撮るのはいけないこと！？

<ポイント>

- ・カメラで人を撮るときは、本人に許可をもらってから。
- ・写真をネットにのせるときは、写っている人に許可をもらってから。

友だちのかいた絵や文章、勝手に使うと法律違反！？

<ポイント>

- ・人の作品を使いたいときは、本人の許可をもらってから。
- ・自分で買ったものでも、勝手にコピーしたりネットにのせたりしない。

おもしろ半分の書き込みは無責任！

<ポイント>

- ・ウソやデタラメは書き込まない。
- ・「こんなことを書かれたらどう思うか」を相手の立場になって考える。

ちょっと待って！ その添付ファイルは大丈夫？

<ポイント>

- ・お家の人に相談し、プロバイダのウィルス対策サービスなどを利用しよう。
- ・知らないひとからの添付ファイル付きメールは、絶対に開けない。

気づかないうちに加害者になってしまったら

<ポイント>

- ・ネット上で情報を発信するときは、相手のことを考えて。
- ・「そんなつもりじゃなかった」ときも、加害者になることがある。
- ・トラブルに巻き込まれたら、お家の人や先生に相談しよう。

ネット社会をうまく歩いていくために・・・1項目1ページ構成

顔の見える相手と見えない相手、どちらの人間関係も大切に！

<ポイント>

- ・メール、掲示板、ブログは「道具」。
- ・友だち、家族、知りあい、と顔をあわせての会話を大切にしよう。

(3) 保護者向けテキストの特徴

保護者用のテキストには、子ども用テキストも合本とし、家庭に帰ってからセミナーをきっかけとして情報モラルに関してテキストをもとに会話ができるように配慮した。

また、保護者からは「具体的にどのようにしていいのかわからない」という声をよく聞くため、家庭においてどのように対応したらよいかを、フィルタリングの依頼の仕方、事故時の具体的な対応手順などの例示や相談先・通報先などの連絡先も交えて、できるだけ具体的に記述した。

はじめに・・・1項目1ページ構成

委員長からの本テキストの特色、活用方法、委員会メンバーの紹介を記載。

今、子どもたちが危ない～すぐそこにある危機～・・・見開き2ページ構成

オリエンテーションのページとして、保護者の方々に子どもたちのネットワークの利用実態や取り巻く危険について具体的な数字や例を挙げて注意喚起をした。

今すぐ、大人がやるべきこと・・・見開き2ページ構成

保護者の方が緊急避難的に早く行ったほうがいいことを記載した。

- ・子どもの実態を知る。
- ・フィルタリングを設定する。
- ・我が家のルールを決める。
- ・セキュリティ対策にも気を配る

「転ばぬ先の杖」を心がける～「うちの子に限って」はない～・・・見開き2ページ構成

親はなかなか子どものトラブルを見つけられない。家庭での発見のポイントとトラブルに巻き込まれた場合の対応方法を示した。

情報モラル、こうやって伝えよう～指導するときのポイント6つ・・・見開き2ページ構成
 保護者の方が情報モラルを指導するときの注意点を示した。

- (1) ネット・ケータイの良い点、悪い点を伝えよう。
- (2) 「～してはダメ」ではなく「～しよう」で話そう。
- (3) 子どもがどんなふうに使っているか関心をもとう。
- (4) ネット・ケータイの事件を話題にしよう。
- (5) 家庭でのルールを作り、守っていこう。
- (6) 何でも相談できる雰囲気づくりをしよう。

ネット社会を生き抜く子どもを育てる～被害者や加害者を作らないための家庭教育～・見開き2ページ構成

長期的に見た人間教育のページと考えると、そもそも「いじめっ子」「いじめられっ子」にしないためにはどのように子育てしたらよいかを扱った。

(4) 全文の紹介



子ども用テキスト http://www.cec.or.jp/jka/Kids_081022.pdf



保護者用テキスト http://www.cec.or.jp/jka/Parents_081022.pdf

(5) 利用状況(平成21年2月 現在)

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」テキストダウンロード数

年 月	子ども用テキスト	保護者用テキスト
平成20年11月	9、725	8、786
12月	5、124	6、755
平成21年 1月	3、210	1、898
2月	3、901	3、600

3. セミナーの実施

セミナーを各地で開催していただくにあたっては、基本的に開催地から提案していただくことにしたが、いくつかのパターンも提示して、話し合いながらセミナー形態を決めた。

セミナーはお話をすることに終わるのではなく、親子が議論できる形態や、ワークショップなどの形態を検討した。

- (例)・第1部：子ども向けセミナー（授業形態）
- ・第2部：保護者向けセミナー（ワークショップ形態）

(1) セミナー内容

テーマ

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」

開催時期と時間

- ・開催日：平成20年11月7日（金）～平成20年12月18日（木）
- ・開催時間：2時間～3時間

参加者

- ・子ども：1会場 約60名～200名、
- ・保護者：1会場 約22名～80名

開催会場

学校の体育館、講堂、視聴覚室、コンピュータ教室

(2) 開催形態

6校の開催形態は以下のとおりとなっている。

開催校	対象	公募対象			形態				参加者				
		教育委員会	学校	保護者会	授業	講演	発表会	ワークショップ	子どものみ参加	保護者のみ参加	子どもが対象だが保護者は自由参加	子どもと保護者が同席	
木津川市立泉川中学校	子ども 保護者												
松戸市立六実小学校	子ども 保護者												
糸満市立光洋小学校	子ども 保護者												
新座市立新座小学校	子ども 保護者												
白石市立南中学校	子ども 保護者												
仙台市立東華中学校	子ども 保護者												

募集にあたっては、親と子の参加を前提に学校のみならず、教育委員会、保護者会からの応募も募った。

(3) 開催地報告

京都府

開催校	木津川市立泉川中学校
開催日時	平成20年11月7日(金) 13時40分～16時30分
セミナー会場	木津川市立泉川中学校、視聴覚室、コンピュータ教室
受講者数	子ども：191名 保護者：22名 教師：20名
セミナー形態	第1部：授業 1年生・2年生対象 第2部：ワークショップ 保護者・教員対象
アンケート回収数	子ども：191 保護者：16
セミナーについての感想	<p><子どもの様子> 静かに話を聞いていた。予備知識の個人差が大きかった。 講演を聞いて、情報機器について考えるべく刺激されたように感じる。</p> <p><保護者の様子> 保護者体験セミナーでは、「話が分かりやすい」「改めて考えさせられた」「もう少し時間が欲しかった」など、積極的な意見が多かった。</p> <p><セミナーの内容について> 保護者、教職員合同研修については、時宜を得ていたように感じる。 生徒については、使用状況、理解状況の個人差が大きく、一斉指導の難しさを感じた。</p> <p><テキストについて> 漫画で示されており、生徒が興味をもって見るよう工夫されている。</p>
セミナー風景	 

千葉県

開催校	松戸市立六実小学校
開催日時	平成20年11月8日(土)10時~12時
セミナー会場	松戸市立六実小学校 体育館
受講者数	子ども：69名(6年28名・5年15名・4年17名・3年以下6名・ 中学3名) 保護者：61名 教師：10名
セミナー形態	第1部：子ども向け授業 (45分) 大人の傍聴も有り 第2部：保護者向けセミナー(60分) 子供の傍聴も有り
アンケート回収数	子ども：68 保護者：59
セミナーについての感想	<p><子どもの様子> 講師の質問が多くその都度子供が自分について考えたり手を挙げて自分の意思表示をするなど寒いながらも集中して聞いた様子。</p> <p><保護者の様子> 子供セミナーから通して参加した大人が半分ほどいた模様。 援助交際で使われている暗号など、より身近な内容に興味を示していた。</p> <p><セミナーの内容について> とてもよかったという意見が多数聞かれた。ブログ書き込みなどで他人を傷つけてしまう内容については、もう少し詳しく知りたかったとの話があった。会場では、なかなか質問しにくい様子であった。</p> <p><テキストについて> イラストも多くわかり易い。幅広い内容なのでセミナーで語られなかった内容もカバーしているので良かったと思う。</p>
セミナー風景	

沖縄県

開催校	糸満市立光洋小学校
開催日時	平成20年11月13日(木)
セミナー会場	糸満市立光洋小学校 体育館・視聴覚室
受講者数	子ども：193人 保護者：16人 教師：11人
セミナー形態	第1部：5・6年生向けの授業 第2部：保護者向け講演会
アンケート回収数	子ども：193 保護者：16
セミナーについての感想	<p><子どもの様子></p> <p>静かにセミナーを受講していた。</p> <p>本校の児童の携帯所持率が9%とあって、身近なものには感じ取れていたかどうかという問題があるが、今後携帯電話を持つ事を前提にして考えればとてもいい講演を聴けたと思う。</p> <p><保護者の様子></p> <p>保護者に文書や放送等で呼びかけを行ったが、セミナーの受講者が少なかった。</p> <p>セミナーの受講者の声で、他の校区の中学校でも講演会を行ってほしいという話があった。</p> <p><セミナーの内容について></p> <p>今問題となっている裏サイトや掲示板、出会い系サイトなどの話が盛り込まれており、その怖さを知ることができ、また具体的な対応策もセミナーで話がされており、とても勉強になった。とてもいい内容であった。</p> <p><テキストについて></p> <p>イラストを通して説明がされていたので、児童がこのセミナーの内容に入りやすかった。</p> <p>保護者向けのテキストも親の場合の対応策も掲載されており、セミナーの内容が、今後の育児のとてもいいアドバイスとなったと感じた。</p>
セミナー風景	 

埼玉県

開催校	新座市立新座小学校
開催日時	平成20年 12月2日(火) 児童向け授業 13:35~14:35 保護者向け講演会 15:00~16:00
セミナー会場	新座市立新座小学校 ハナミズキルーム
受講者数	子ども: 143名(5年生72名、6年生71名) 保護者: 80名 教師: 5名
セミナー形態	第1部: 児童向け授業 第2部: 保護者向け講演会
アンケート回収数	子ども: 143 保護者: 60
セミナーについての感想	<p><子どもの様子> 今までの使い方を見直してみようと考えた児童が多かった。また、これを機会に保護者と話し合ってみようと考えた児童も多かった。</p> <p><保護者の様子> 「大変興味深い講演でした」との感想が何件か連絡帳にあった。</p> <p><セミナーの内容について> テキストを使いながら、もっと具体的な事例や防ぐ手立て、対処法などを入れても良いのではという意見があった。</p> <p><テキストについて> 非常に良くできていて、分かりやすく、活用できるテキストであると思う。</p>
セミナー風景	 

宮城県

開催校	白石市立南中学校
開催日時	平成20年12月17日(水)
セミナー会場	白石市立南中学校 ホール
受講者数	子ども：59名 保護者：24名 教師：14名
セミナー形態	第1部：生徒対象授業(保護者・教員参観) 第2部：保護者・教員向け講演会
アンケート回収数	子ども：59 保護者：20
セミナーについての感想	<p><子どもの様子> ワークショップ等工夫があり、楽しく、且つしっかり内容を理解していたようである。特に、機器の利点を大切にしながら、影の部分を丁寧に理解し、危機管理ができるようなきっかけとなったと感じる。</p> <p><保護者の様子> 授業も参観することで、危機管理についての意識や家族のコミュニケーションの大切さの認識が倍増したように感じる。</p> <p><セミナーの内容について> セミナーのポリシーにも共感したし、大変満足のいく内容であった。このような機会を提供いただいたことに感謝している。時間が許せば保護者にももう少し切実感を持ってもらうために、シュミレートする場面も設定したかったと考えている。</p> <p><テキストについて> 親しみやすいイラストで、生徒も興味を持って読む様子が見られた。保護者に対しては、講演内でも活用したし、内容も分かりやすかったため、家庭でも見る機会を持ったようである。</p>
セミナー風景	

宮城県

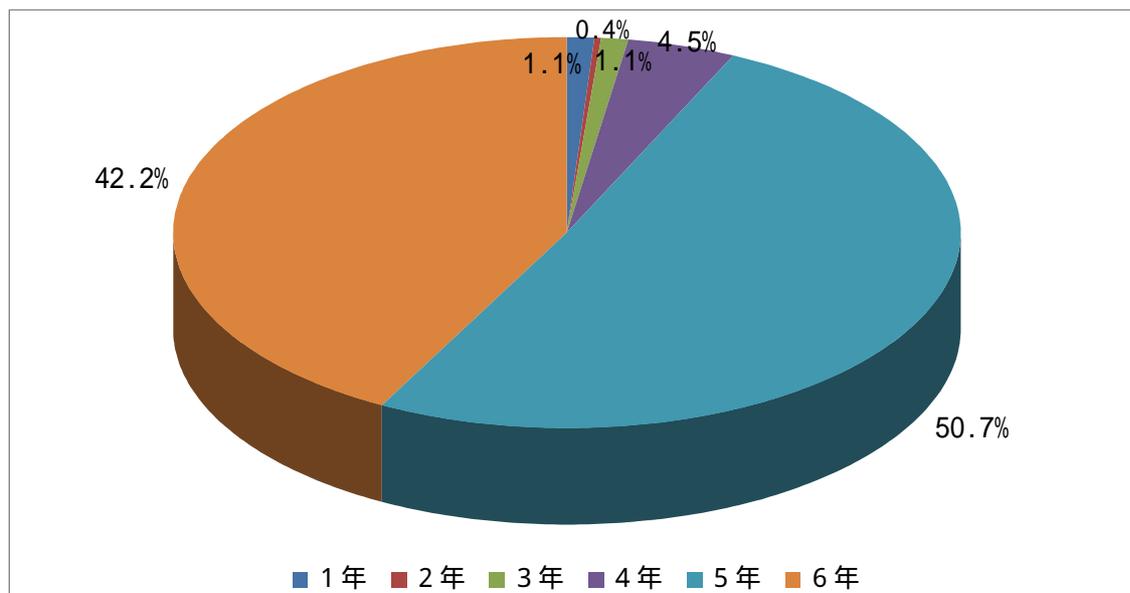
開催校	仙台市立東華中学校
開催日時	平成 20 年 12 月 18 日
セミナー会場	仙台市立東華中学校 かしわホール
受講者数	子ども：中学 2 年生男女 170 名 保護者：中学校 30 名 小学校 20 名 計 50 名 教師：中学校 14 名小学校 2 名大学 2 名市教育委員会 4 名
セミナー形態	第 1 部：子ども向け授業 第 2 部：保護者向けワークショップ
アンケート回収数	子ども：160 名 保護者：48 名
セミナーについての感想	<p><子どもの様子> 講師のやわらかい導入で抵抗なく授業に入っていた。 グループでの話ではよく意見を出して受け身というより自分で考えることができた模様。</p> <p><保護者の様子> 学校裏サイトやプロフ・ブログ、ネット上のトラブル等具体的な状況を提示していただき、講師に惹きつけられていた。 個人的な質問に全て答えていただき時間をオーバーしましたが、ニーズにあった講演内容で、満足した様子であった。</p> <p><セミナーの内容について> 講師の授業にはたいへん興味がある。ネット関係のものは小学校・中 1・中 2 と状況に応じて指導が必要なので今回は、生徒向けが 50 分では足りなかった気がする。できれば 2 コマ欲しかった。</p> <p><テキストについて> 内容は非常に良いと思う。表紙の絵はシンプルでもよいかもしい。</p>
セミナー風景	

4. アンケート結果分析

高橋 邦夫委員

I 小学生対象アンケート

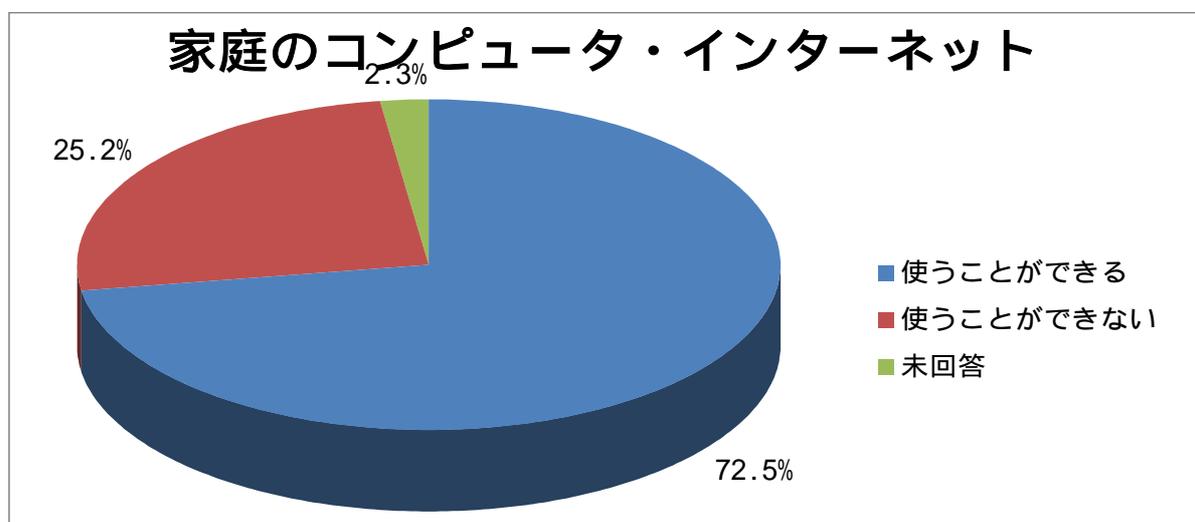
対象としては小学校5年生、6年生が大半であったので、小学校高学年（約350件）のアンケートとして捉えることとする。



(1) パソコン、インターネットの利用について

72.5%が家庭でコンピュータやインターネットを使うことができると回答している。

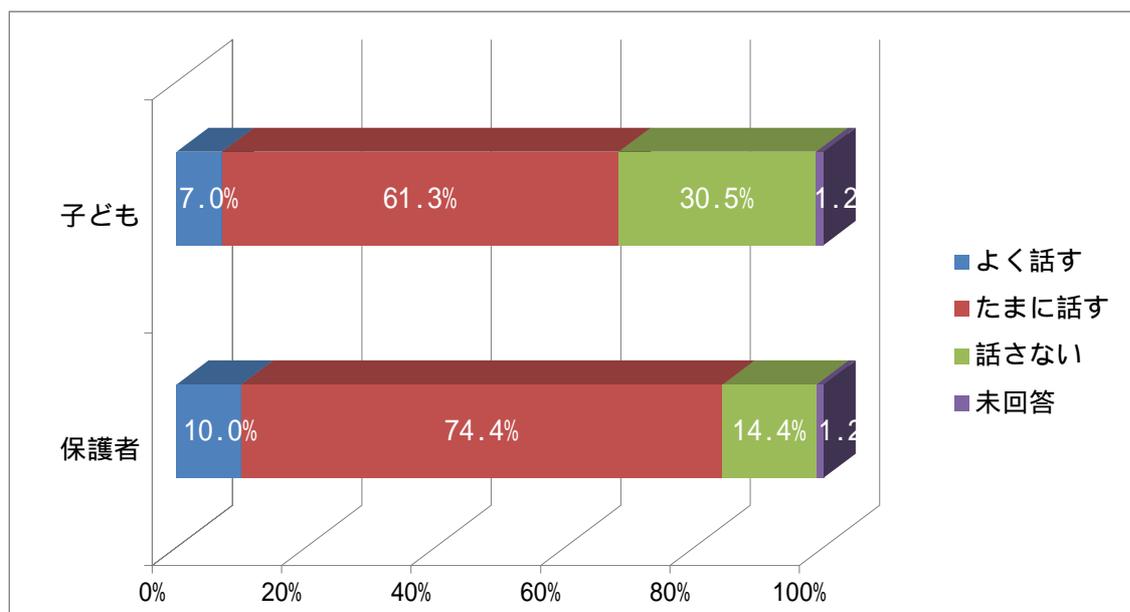
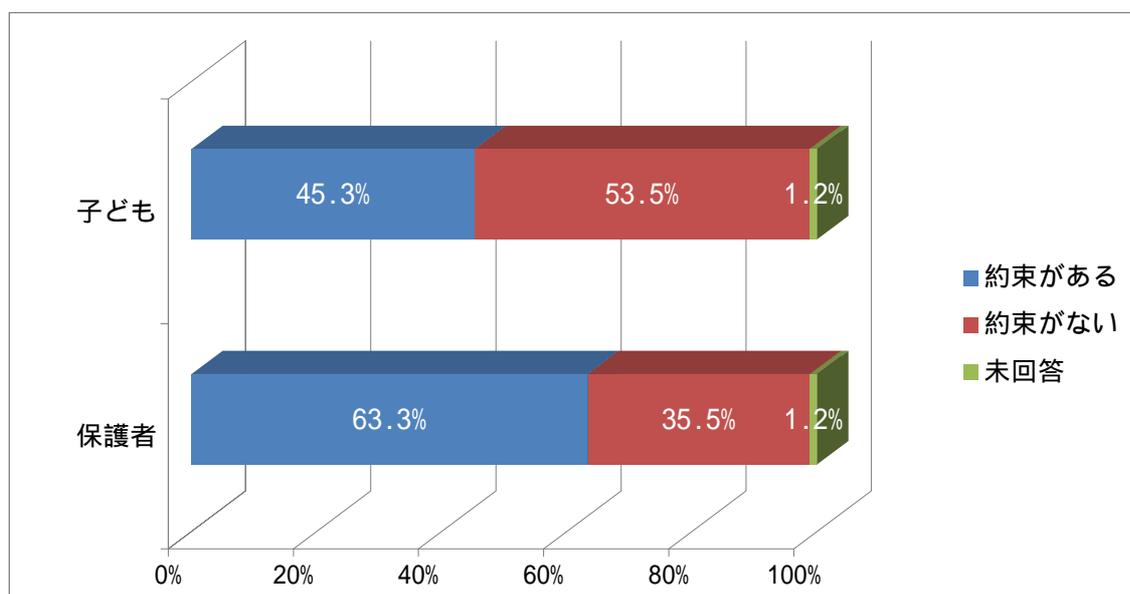
既知用語に関する質問のうち、コンピュータやインターネットの使用に関して「ブログ(76.2%)」「ネットゲーム(64.3%)」が特に高率であり、コンピュータやインターネットが使える環境にある児童はサイト閲覧等を中心として実際に家庭でインターネットを使用していると推測される。



(2) インターネット利用時の約束について

家庭でインターネットを使う際に約束を決めているとする児童は45.3%。半数以上が約束を決めていないと認識している。他方、小学生の保護者に対するアンケートでは、63.3%が約束を決めていると回答されており、「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること(今回の数字では約1/5の家庭)が推察される。

同様に、インターネットの使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、84%の保護者が話していると認識しているのに対し、児童は68%に留まっている。



(3) 携帯電話の使用について

今回の対象者の中で、携帯電話の所持は、75 / 353で21.2%であった。携帯電話を持ち始めた学年として最も多いのは4年生の25人、次いで5年生19人、3年生15人、2年生9人、6年生5人、1年生1人、未回答1人であった。中学年にあたる3、4年生頃から塾通い等のために所持させる家庭が毎年5～7%ずつ積み上がり、6年生までに2割に達するという傾向であると考えられる。

主な用途として、自由記述から拾うと、

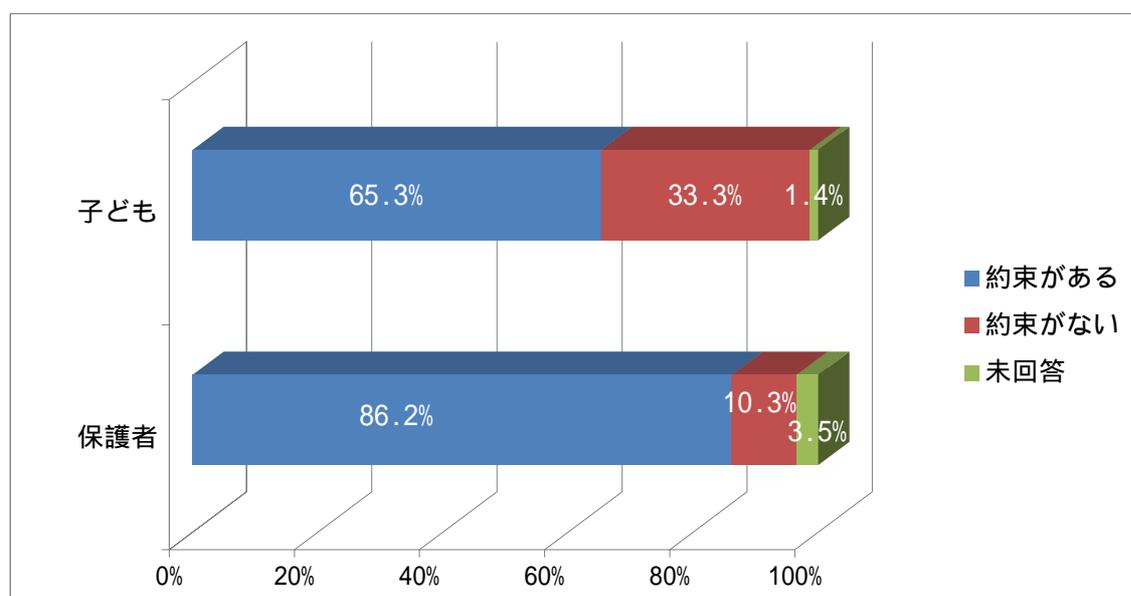
- ・塾や習い事の際の家族との連絡手段（通話・メール）
- ・友人との連絡（通話・メール）
- ・カメラ、写メール、画像交換
- ・音楽を聴く
- ・電卓
- ・ゲーム
- ・テレビ

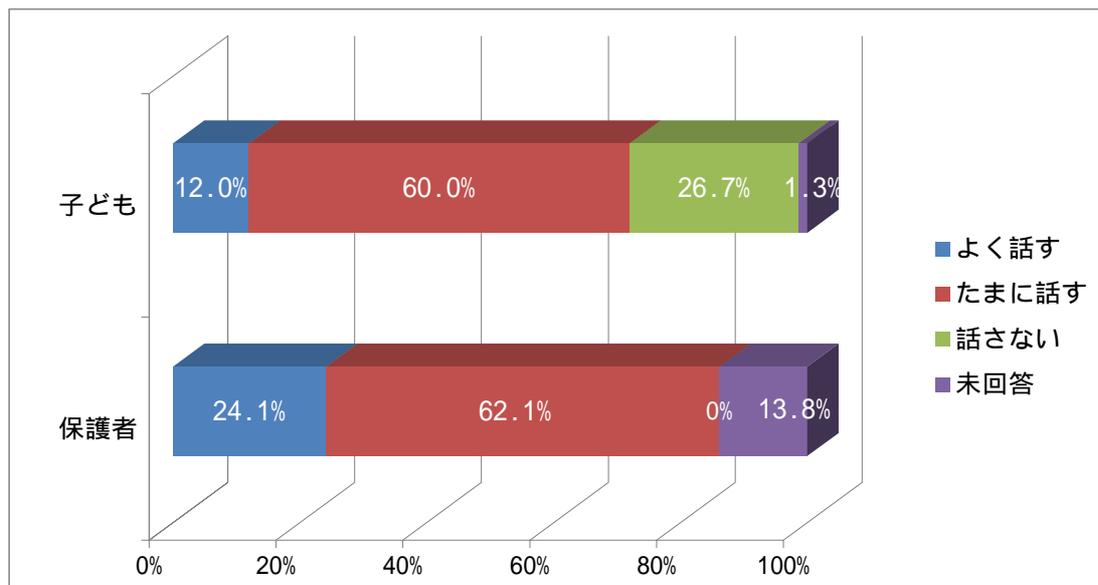
などである。

(4) 携帯電話利用時の約束について

家庭で携帯電話を使う際に約束を決めているとする児童は65.3%。インターネットの場合よりもやや高率であるが、約1/3が約束を決めていないと認識している。他方、小学生の保護者に対するアンケートでは、86.2%が約束を決めていると回答されており、やはり「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること（インターネットと同様に約1/5の家庭）が推察される。

また、携帯電話の使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、86%の保護者が話していると認識しているのに対し、児童は72%に留まり、約3割が「野放し」状態に相当すると考えられる。





(5) ネット・メディア使用傾向

用語に関する認知度、いやな思いをした体験などから、インターネット、携帯電話の利用に関する傾向を読み解くと、下記ようになる。

「ブログ」は男子の7割、女子の8割が認知しており、コミュニケーションツールとしてのインターネットの姿についてはかなり把握されている。また、「2ちゃんねる」を知っていると答えたのは1/3に上ることに注意を払う必要がある。「2ちゃんねる」はインターネットの負の側面を代表する言葉でもあり、その存在について（おそらく学校で教わることはないのに）知っていると言うことは、インターネット使用の過程で、あるいは友人知人からの情報として知るにいたる機会があったということの意味する。

一方で、「フィルタリング」についての認知は1割に留まる。保護者では半数以上が認知している言葉であり、小学生の認知度が低いことは、インターネットの危険から自ら身を守るための知識に乏しいことが示唆される。

「出会い系サイト」「掲示板サイト」「ネットゲーム」「学校裏サイト」は、若年層ではコンピュータからのアクセスよりは、携帯電話からのアクセスの比率が高いものに該当するが、小学校高学年の半数以上が認知している。携帯電話を所持するか否かにかかわらず、情報モラル教育や生活指導等を通じた情報安全に関わる知識として見聞していると思われるが、「フィルタリング」の認知が低いこととあわせて考えると、『「出会い系サイト」などの用語が意味するものが危ない、怪しいということは知っているが、具体的にどのように身を守るかの知識は備えていない』という状況が考えられる。

携帯電話やインターネットでいやな思いをした者は、24名、7%であった。内容は、チャットをしていて変なことを言われた、掲示板で悪口を言われた、他人がいじめられている書き込みを見た、嘘をつかれた、といったものであった。いずれも比較的軽度の部類に属すると思われ、実体験として危険に遭遇する比率は多くないと考えられるものの、深刻な事態に繋がりがねない危うさをはらんでいることに留意する必要があるだろう。同じ質問で保護者の回答は、24%が「ある」と答え、チェーンメール、悪口メール、架空請求などの迷惑メール類が多いが、中には、音楽ダウンロードで高額な請求を受けた、

実名を書き込まれたなど、やや心配な事例もみられた。

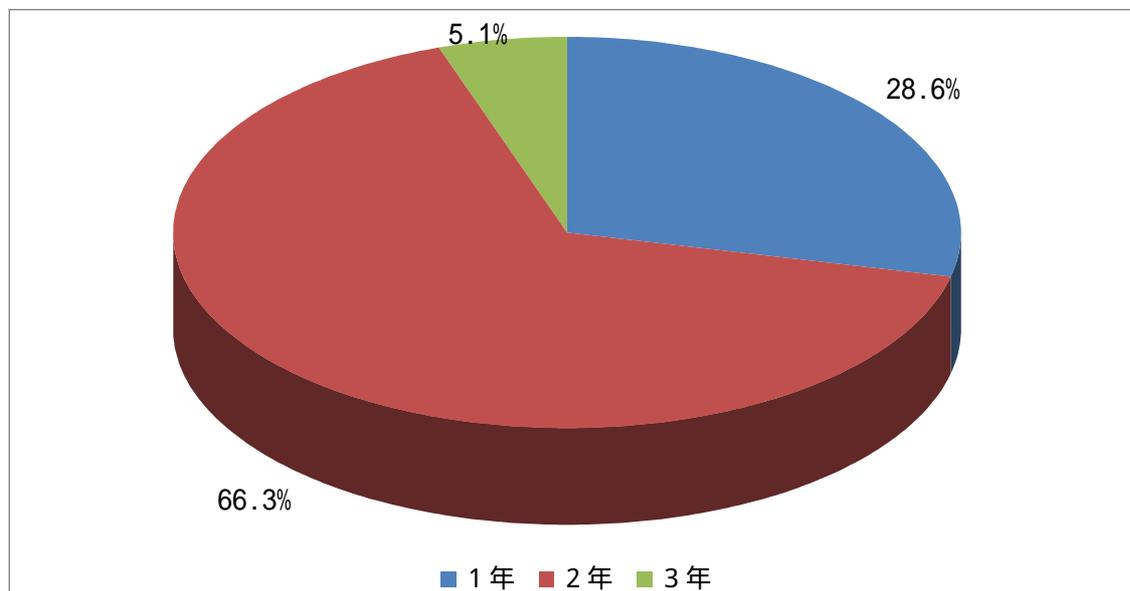
(6) セミナーについて

小学生、保護者とも、セミナーについては好印象であり、特に子どもたちは9割以上が楽しく、役立つものと回答し好評であった。保護者からも、6割が良いと答え、否定的評価は僅少で、自由記述においても、このようなセミナーの機会の重要性についての認識がうかがわれた。

また、テキスト冊子について、小学生105名に対してわかりやすさを聞いたところ、91%がちょうどよいとの回答であり、好評であった。

II 中学生対象アンケート

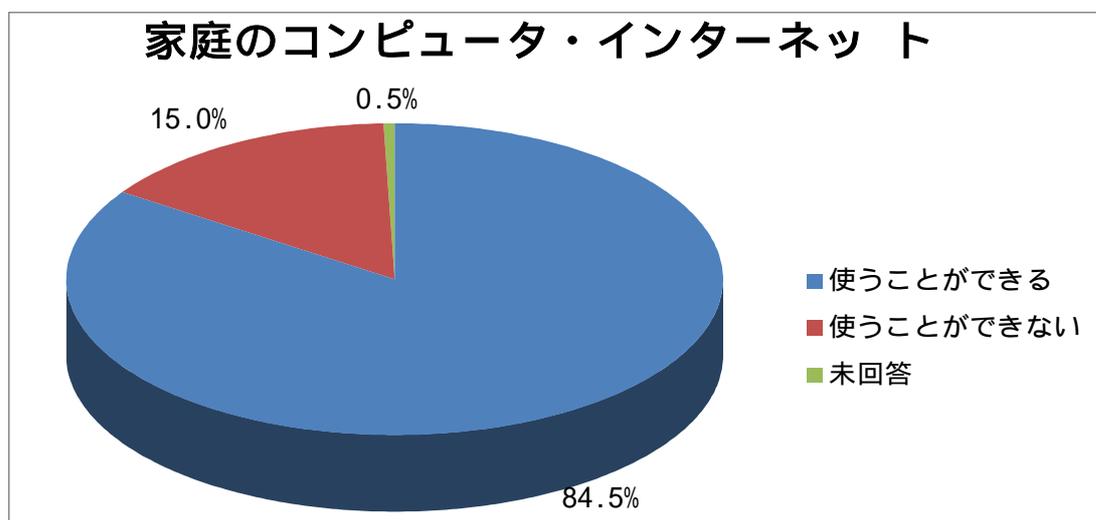
対象としては中学校2年生、1年生が大半であった。



(1) パソコン、インターネットの利用について

84.5%が家庭でコンピュータやインターネットを使うことができると回答している。

既知用語に関する質問のうち、コンピュータやインターネットの使用に関して「ブログ(95.3%)」が特に高率であり、実際に家庭でブログの作成や閲覧などにインターネットを使用していると推測される。

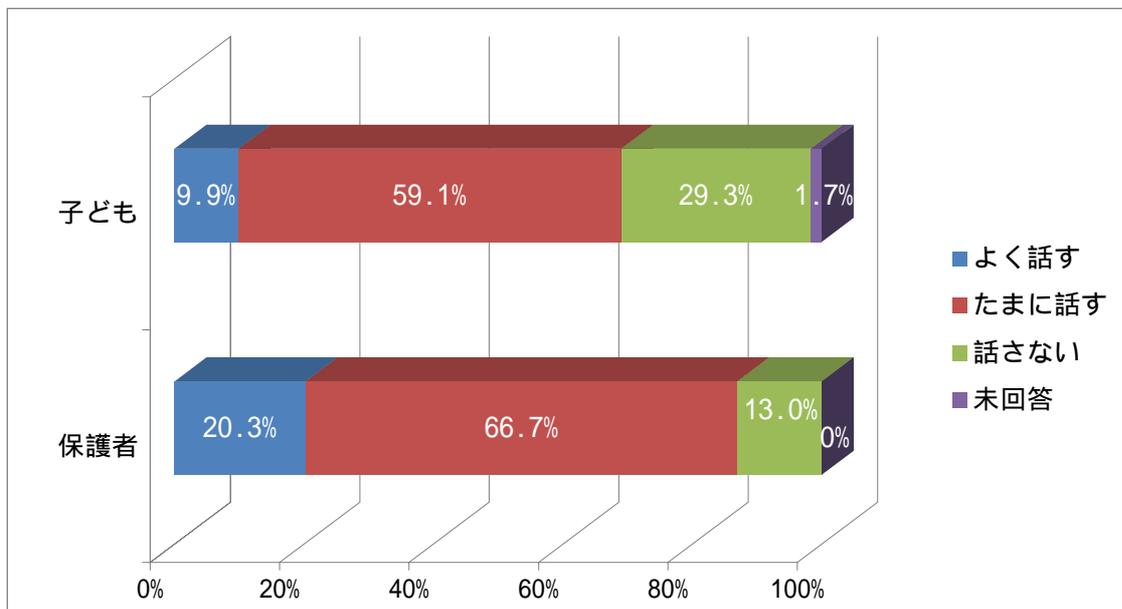
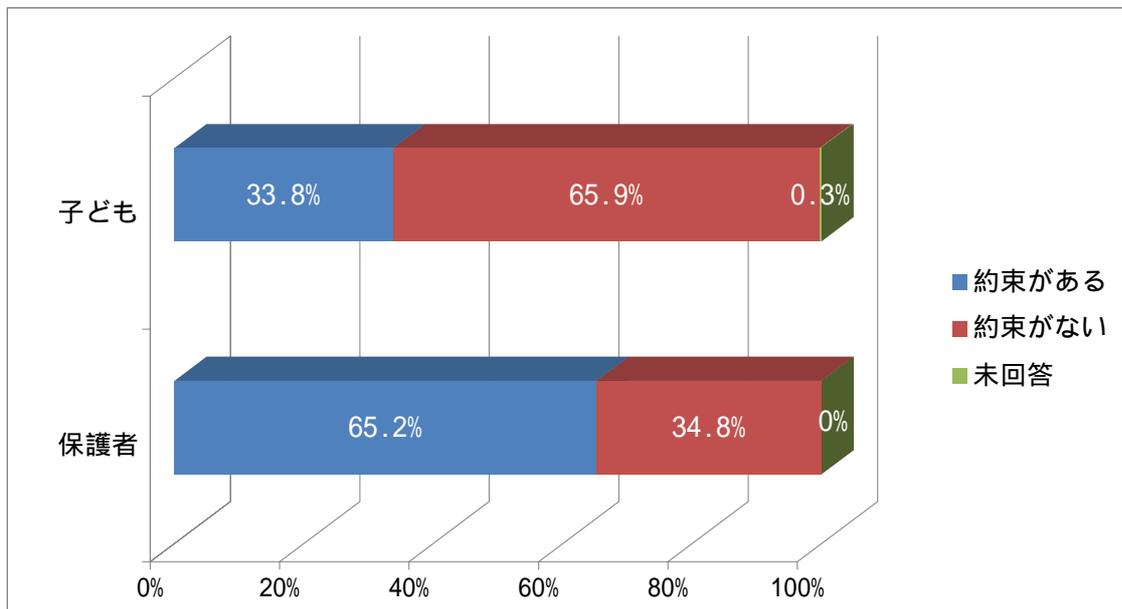


(2) インターネット利用時の約束について

家庭でインターネットを使う際に約束を決めているとする生徒は33.8%。2/3が約束を決めていないと認識しており、小学生の場合よりも高率である。他方、中学生の保護者に対するアンケートでは、65.2%が約束を決めていると回答されており、「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層は、小学生の1/5に対し、中学生では1/3と拡大しているようである。

同様に、インターネットの使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、87%の保

保護者が話していると認識しているのに対し、生徒は60%に留まっており、やはり小学生の場合よりも差が開く結果になっている。子どもの4割が、インターネット使用について親との話し合いがないとの回答であり、何らかの対応が親側に求められることが示唆される。



(3) 携帯電話の使用について

今回の対象者の中で、携帯電話の所持は、181 / 406 で44.6%であった。持ち始めた時期で、最も多いのは中学校1年生の72人、次いで小学校6年生の33人、5年生25人、中学2年生20人、小学校4年生10人、3年生9人、1年生6人、2年生4人、未回答3人で、中学校3年生は0であった。所持者の約4割(全体の約2割)が中学校入学を機会に購入している。小学校在学中に2割、中学校入学時に2割、そして中学校2年次に5%というのが携帯電話を持ち始める年代のようである。

中学生の主な用途として、自由記述から拾うと、

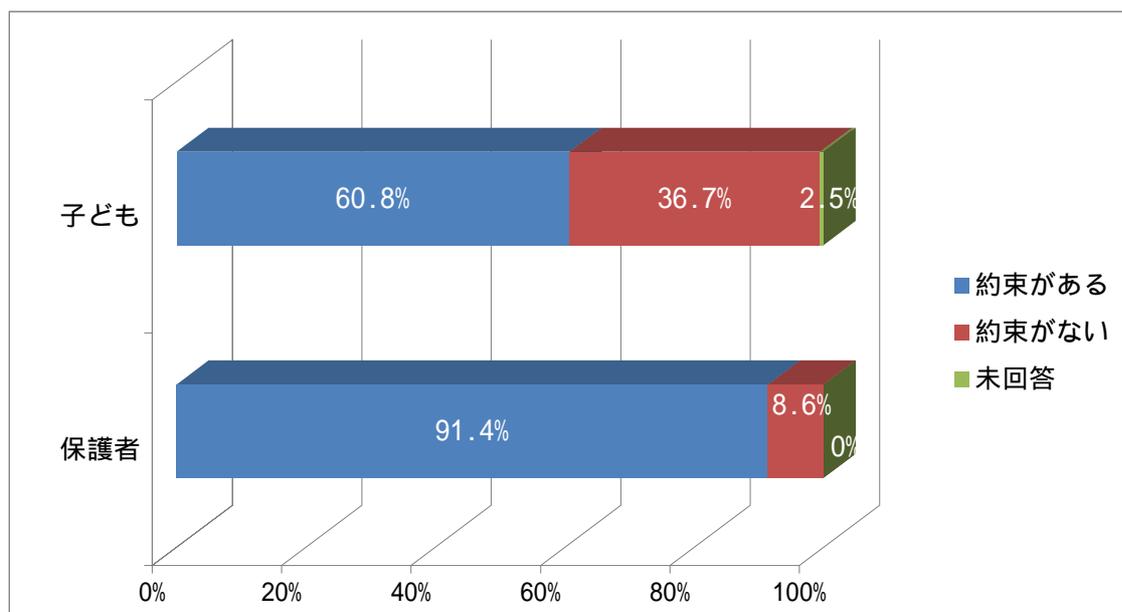
- ・塾や習い事の際の家族との連絡手段（通話・メール）
- ・友人との連絡（通話・メール）
- ・音楽を聴く
- ・インターネットを見る
- ・ゲーム
- ・テレビ

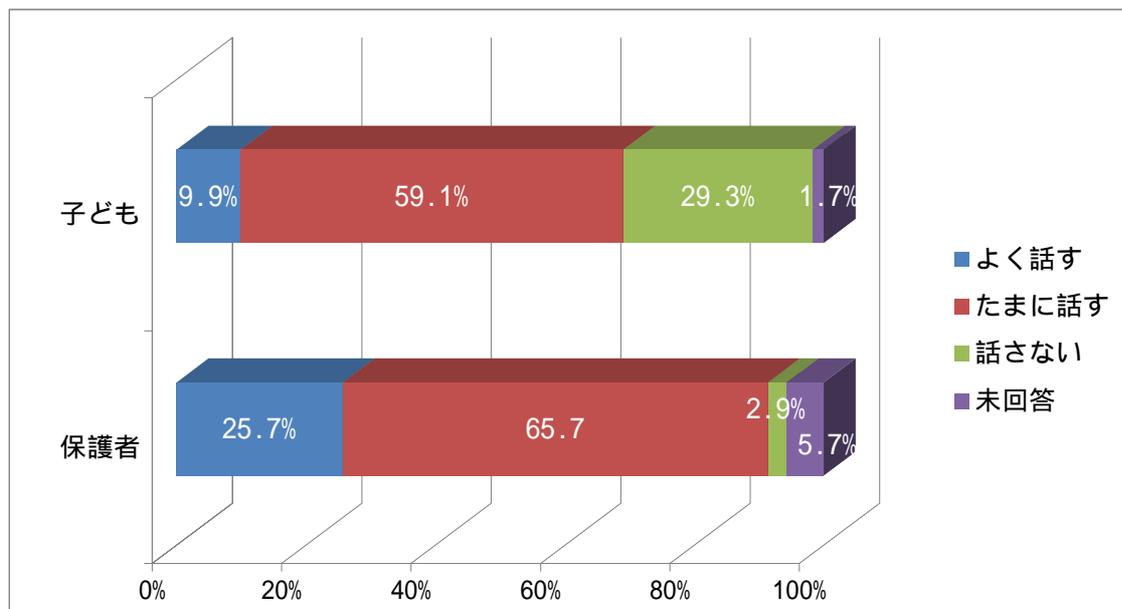
などであり、記述自体ではほぼ小学生と傾向は似ているが、交際範囲は他校の友人にまで広がる例も回答があり、家族に限定される傾向がある小学生とは異なり、友人等との自由な通信に比重が移ってきていることが推測される。

（４）携帯電話利用時の約束について

家庭で携帯電話を使う際に約束を決めているとする中学生は60.8%。インターネットの場合よりもかなり高率であるが、やはり約4割が約束を決めていないと認識している。他方、中学生の保護者に対するアンケートでは、91.4%が約束を決めていると回答されており、やはり「親が約束したつもりでも、子どもは約束がないと認識している」層が少なからずいること（インターネットと同様に中学生の場合は約1/3の家庭）が推察される。

また、携帯電話の使用に関して家庭で親子の話し合いがあるかどうかについて、話していると認識している保護者は91%であったのに対し、中学生の回答は69%に留まり、小学生の場合と同様の傾向がみられた。中学生の子どもと保護者との間では、クラブ活動などのために家族で過ごす時間は少なくなることはあるにしても、親からは積極的にコミュニケーションをとろうと働きかけていることが推察されるが、2割程度が子どもの受け止め方と乖離しているようである。また、中学生で約3割が携帯電話の約束ごとについて親との話し合いがないとの回答で「野放し」状態に相当すると考えられることも小学生の場合とほぼ一致している。





(5) ネット・メディア使用傾向

用語に関する認知度、いやな思いをした体験などから、インターネット、携帯電話の利用に関する傾向を読み解くと、下記のようなになる。

「ブログ」は男女とも95%の認知、「プロフ」は男子が6割弱、女子の8割弱が認知しており、コミュニケーションツールとしてのインターネットの姿について、やはりかなり把握されているようである。また、「2ちゃんねる」を知っていると答えたのは6割（小学生では3割強であった）に上った。使用経験年数が増加するにつれて、インターネットの負の側面についても知るようになるということである。

一方で、「フィルタリング」についての認知は37%に留まる。小学生の場合よりは多いものの、半数以上が知らないことはやはり課題であるといえよう。小学生の場合と同様、インターネットの危険から自ら身を守るための知識に乏しいことが示唆されている。

「出会い系サイト」「掲示板サイト」「ネットゲーム」「学校裏サイト」は、いずれも8割以上の認知度であり、生徒間の情報交換から知識を得る機会も当然多いとおもわれるが、むしろ、中学1年次の技術科を中心に行われる情報教育、情報モラル教育や生徒指導等の成果であると考えられる。他方、「フィルタリング」や「プロトコル」などの、安全・セキュリティ対策を考える上で必要となる概念についての認知度は低いため、やはり、「危険らしいということはわかるが、具体的にどのように予防し、身を守るのかについての知識は乏しい」という状況にあると推察される。

携帯電話やインターネットでいやな思いをした者は、57名、14%であり、小学生の2倍であった。

内容は、迷惑メールや、チャット・掲示板での誹謗中傷などで、ウィルス被害の報告もあった。保護者の回答も同様であったが、「先輩男子からしつこくメールが入り、いやがっていた」など、思春期の子どもを抱える保護者ならではの事例報告もあった。やや深刻と思われるものでは、架空請求、サービス料の高額請求、ワンクリック詐欺、いじめ（書き込み、いじめサイト）の事例も報告された。

(6) セミナーについて

中学生、保護者とも、セミナーについては好印象であり、特に子どもたちは9割以上が楽しく、6割が役立つものと回答した。保護者からも、8割強が良いと答え、否定的評価は僅少で、自由記述においても、このようなセミナーの機会の重要性についての認識がうかがわれた。

また、テキスト冊子について、中学生215名に対してわかりやすさを聞いたところ、84%がちょうどよいとの回答であり、中学生に対しても好評であった。中学生、小学生それぞれに、自分たちのレベルに適した内容があり、満足であったとの評価が得られたようである。テキスト冊子はマンガやイラスト、キャッチコピーや事例解説などを組み合わせた体裁であるが、これらが、幅広い年齢層にそれぞれのレベルで受け入れられる内容であったと推察される。

5．セミナーを終えての感想と今後の課題

井上 勝委員

1．セミナーテキスト開発の思い

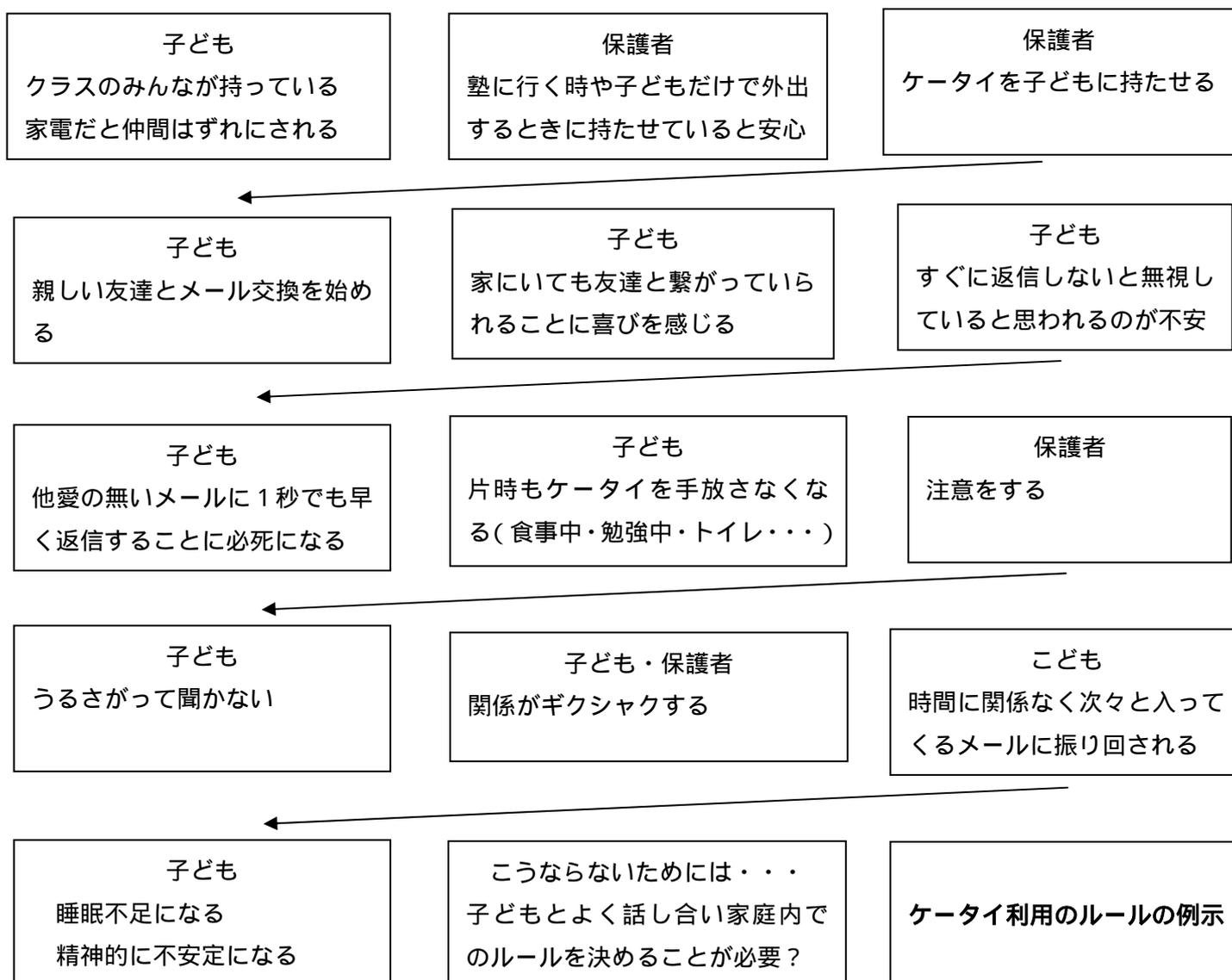
八千代松陰学園の敷地内には八千代松陰中学校がある。私は八千代松陰高校の所属であるが、中学校の技術・家庭科の「情報とコンピュータ」の分野の授業に平成14年度から関わっており、その授業実践の中で情報モラルを指導する際に「ネット社会の歩き方」をたびたび教材として活用してきた。今回の子ども用テキストは「ネット社会の歩き方」をベースにするという方針だったので比較的スムーズに原稿が書けたと思う。一方、保護者用ページについては私自身に我が子のインターネットやケータイの使用で悩まされた経験があったので、テキストを手にしていただく保護者の方がそのような悩みを持たずに済むようにとの思いで原稿を執筆した。

2．松戸市立六実小学校でのセミナー

私が勤務する八千代松陰高等学校は六実小学校と同じ千葉県にあり、本校から六実小学校までは車で40分ほどで行ける。現在、授業や部活動で教えている生徒の中にも六実小学校卒業の生徒がいることもあって、セミナー当日初めて訪れる学校ではあったが、非常に親近感をもちながら準備に取り組めた。

今年度の親子のためのネット社会の歩き方セミナー開催校6校の中で唯一のPTAが主催する学校であり、私は保護者向けのセミナーを担当させていただいた。事前に内容については「ITに付随する危険性、犯罪、など現代社会が抱える問題点。子どもを守るために必要なこと。」という要望をいただいております。子どもの学年も限定されていないとのことだったので、まだケータイを子どもに持たせていない方も多くいらっしゃる想定し、補助資料(ブログ、プロフ、ネットいじめ、学校裏サイト、なりすまし、架空請求、フィルタリング等の用語を解説したプリント)を準備し、次ページのような流れで進行了。

(1) 家庭でのルール作りの必要性 (メール依存を例にして)



(2) フィルタリング設定の必要性

前半の子ども向けセミナーで梶本先生が話された内容 (無料でゲームがダウンロードできるサイトに登録すると架空請求のメールや有害なサイトへ導くメールが届くようになる) とリンクさせながら、フィルタリングの設定について解説した。

(3) プロフ関連の問題点

プロフへの書き込みが原因で起った「中3生徒金属バット殴打事件 (千葉県柏市 平成20年4月) 」と「高1男子生徒傷害致死事件 (群馬県桐生市 平成20年7月) 」の概要を解説した。また、子どもは友達同士で交換し合う目的で作っているつもりのプロフに子どもを狙う犯罪者が侵入している危険性があることを指摘し、女子中学生高校生が援助交際の相手を募集するためにプロフを利用するケースもあること、偽のプロフを作って中傷するなど極めて陰湿なネットいじめも存在することを伝えた。

(4) まとめ

両 刃 の 剣

ICTは使い方次第で便利な道具にもなるし人を傷つける道具にもなりうる。

Face to face

コミュニケーション手段が多様化しても人間同士のコミュニケーションの基本である。

人 の 心

「人の心」はいつの世でも変わらない。では「人の心」を知るにはどうすればいいか。

自分が今、していることを他人からされたらどう思うか。それを尺度に人からされたくないことを人にしなければいい。「徳を積む」とはそういうことだ。

(本田宗一郎)

自 制 心

あれはだめ、これはだめではうまくいかない。ケータイを持たせた以上保護者が見ていないところで使うことは想定内。大切なことは「やってはいけないとわかっていてもやろうと思えばできることをやらない」自制心を育むこと。

3. セミナーを終えての感想

セミナーに参加される保護者は切実な問題としてとらえていらっしゃる方が多いので非常に熱心に聴いていただけたと思う。アンケートの問14(セミナーを受講して、これからすべきだと感じたことはありますか)の結果からセミナーのねらいが的中したと考えられる。しかし保護者がその気になっても子供が聞く耳を持たなければ良い方向には向かない。家庭、学校、地域それぞれに子供の居場所があり、「人の心」がわかる教育を施すことが重要であると考えます。

4. 今後の課題

- ・より多くの教員が情報モラルを指導できる体制作り(研修の充実、教材開発等)
- ・セミナーに参加したくても参加できない人への学ぶ機会の提供
- ・情報モラルに関心を示さない保護者への啓発
- ・携帯キャリアやサイト運営者の「子どもの安全」に対する意識のさらなる向上と具体的施策の励行

5. 八千代松陰中学校での保護者向けセミナーの開催

六実小学校でのセミナーが終了した3ヶ月後の平成21年2月に八千代松陰中学校の保護者対象の「情報モラルセミナー」と称し、ケータイにポイントを絞って対象を分け、2回セミナーを開催した。キーワードは「両刃の剣」、「Face to Face」、「家庭力」。

< 1回目 > 平成21年2月7日(土)実施

対象: もうすでにケータイを子どもに持たせている家庭

内容： 中高生のケータイの利用実態を解説
中高生が利用する際の問題点のうちプロフ関連の問題点を解説
「ネット社会の歩き方」を教材として行った授業で生徒が記入したワークシートの分析結果を解説
保護者用テキストp. 24～の内容（保護者がやるべきこと、子どもとの関わり方等）の解説



< 2回目 > 平成21年2月21日（土）実施

対象：まだケータイを子どもに持たせていない家庭

内容： 中高生のケータイの利用実態を解説
ケータイを持つと生じる可能性のあるメール依存などの問題点を解説
保護者のための情報モラル学習法（ワークショップ）
上記と同じ



1 はじめに

現在、子どもがネット社会の多くのトラブルに巻き込まれ社会問題化している。特に携帯電話に関するトラブルが注目されている。

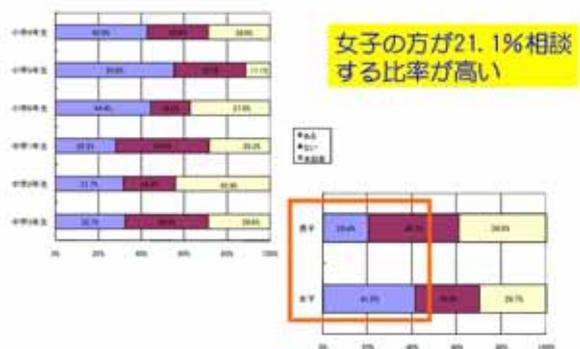
携帯電話は、急速に普及し、現在日本で約1億台が普及している。用途としては、通話をはじめ、メールやニュース、音楽ダウンロード、ショッピング、乗車券の購入等普段の生活の中になくてはならないものになってきている。子どもの所持率も2007年12月の三木市調査では、小学生6年生で31%、中学生3年生で52%になっている。しかし、子どもが携帯電話を使用するにあたって近年、犯罪に巻き込まれたりするトラブルが報告されている。出会い系サイトについては、警視庁発表2007年調査では、2007年の被害者1,297人中、65.2%が女子中高生である。また、子どもが作った学校裏サイト(学校非公式サイト)で、学校の特定の相手や教師を誹謗中傷する内容が書き込まれたりすることにより書き込まれた者が悩んだり不安を抱え、学校に来にくくなることも起こっていて文部科学省は、学校裏サイトの実態調査を行い対策に乗り出している。さらに、平成21年1月30日付けの「学校における携帯電話の取扱い等について」の通知で小・中学校においては、「学校への児童生徒の携帯電話の持込みについては、原則禁止」、高等学校においては、「授業中の生徒による携帯電話の使用を禁止したり、学校内での生徒による携帯電話の使用を一律に禁止したりするなど、学校及び地域の実態を踏まえ、学校での教育活動に支障が生じないよう校内における生徒の携帯電話の使用を制限すべきであること。」とした。その上で学校における情報モラル教育の充実や家庭での携帯電話の利便性や危険性についての理解を深めるとともにルールづくりの大切さ家庭や地域での見守る姿勢づくりが大切であるとされている。

2 家庭での取り組みの大切さ

インターネットや携帯電話のトラブルは、携帯電話を購入するのは保護者であり携帯電話を子どもに持たせることへの良い点、注意させる点を把握していることは大切である。そして、購入した後も子どもがどのように使っているのか常に意識を向けていく必要がある。

三木市の小中学生への調査では、子どもの携帯電話を使用する上での悩みは、「悪口の書き込み・嫌がらせ、中傷メール」といった「人とのトラブル」に関することが多く相談相手は家族が多い。そのため、家庭では、子どもに「嫌がらせメール」が送られて来た時、すぐに家族に相談するように約束しておき学校に連絡し、連絡を受けた学校は、学校全体として人間関係のトラブル解消に取り組むことが有効であると考えられる。しかし、保護者は、インターネットや携帯電話に関して発生したトラブルへの対処方法を学習し

嫌な経験をしたときの相談の有無



てきていないので、家庭で子どもに何に気をつけたらよいのか十分に子どもに伝えることができない状況である。

このような状況のなかで、親子でインターネットやケータイの利点や危険性を学ぶためのテキストはなかなかなく、手探りの実践が試みられているのが現状であった。その中で、今回このような「親子のためのネット社会の歩き方」テキストの作成は、ぜひとも必要なものであった。

3 「親子のためのネット社会の歩き方」テキストの特徴

本テキストは事例をわかりやすくするためにイラストが多く使われ、内容が理解しやすくなっている。

また、子どもも大人も現実にネット社会の中で生きているので、その中で上手に安全に生活していく力を身につけることが大切である。その点、本テキストは、ただ単に気をつけましょうという内容ではなくネット社会の利点と問題点を対比して掲載し、上手にネット社会を利用していく力を身につけさせる方向で掲載されているので実態に即している。さらに、子ども用と保護者用の部分にわかれており、保護者に取り組んでほしいことが具体的に詳しく書かれているので、研修の後に家で読み返してもらうのに適している。



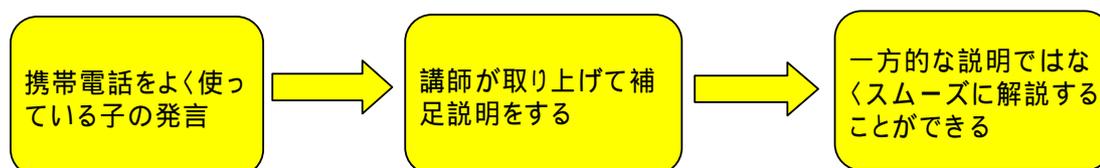
4 六実小学校での様子

(1) 児童向けのセミナーの形式

六実小学校では、児童への学習を受け持った。児童対象なので講義形式にするとわかりにくいと考えて、テキストの画面を実物投影機で映しながら随時子どもの中に入って行って質問をし、子どもに答えってもらう方法をとった。

児童は、最初は戸惑いもあったが答えることに対して次第に慣れてきて問いかけに対して自然に対応するようになった。児童の中にはすでに携帯電話をよく使っている子もいて知らないメールが来た時は「無視する」と答えていた。

各児童の携帯電話の使い方に差があると研修会が行いにくいと思われがちであるが、よく使っている子どもの発言をもとに研修の内容を充実させることができた。



(2) 保護者と一っしょに研修をする意義

児童に研修を行っている間は、後ろの席で保護者に話の内容をいっしょに聞いてもらっているので、家に帰った後で研修の内容について共通の話題にすることができる。さらに、研修の内容を自然と話題

にすることができ、携帯電話の使い方等についても話し始めるきっかけにすることができる。

5 三木市の連合PTA研修会での活用

三木市の連合PTAへ呼びかけて、連合PTA主催の研修会を2回開催した。5月の連合PTA役員会で提案をしたのであるが、会長をはじめとして各委員の方はたいへん意欲的で、ぜひ実施しようということになった。研修会では「親子のためのネット社会の歩き方」テキストを使用して研修をおこなったが、家庭へ持って帰って活用できるので好評であった。最近では、小学校の保護者の中には携帯電話をかなり使っている方もおられてテキストの事例も始めて聞く内容ではなくあのことだという感じで聞かれているのが印象的であった。このように今後ますます携帯電話を使いこなしている保護者を対象とした研修を行うことになることが予想される。それに合わせて研修の内容もより具体的な事例を取り上げたり、保護者の体験を取り上げたりしやすくなることが考えられる。

6 課題

「親子のためのネット社会の歩き方」は、現在テキストだけなので、各事例の内容を説明するためには講師にある程度の力が必要になってくる。情報モラル教育に慣れていない教師にも研修を行うことができるようにするためには、今後各事例のアニメーションを作成し、それとテキストとを併用していくとより研修がしやすくなると思われる。

すでに、財団法人コンピュータ教育開発センター（CEC）からは「ネット社会の歩き方」が公開されているが、テキストに準拠した「親子のためのネット社会の歩き方」テキスト版があれば、テキストで狙いとしていることが達成しやすくなると思う。

また、来年度も親子セミナーを継続して実施するとともに、学校独自でも親子セミナーを開催できるようにしていきたい。子どもを育てることは将来の親を育てることになるので、長期的な目標も見据えて取り組んでいくことが重要である。



1. テキストの開発

C E Cの委員として協力させてもらうのは初めてだったので、このプロジェクトの経過や前年度の成果など、何も知らずに参加した。その分あまり役に立たなかったのではないかと反省している。自分の担当については、自分の経験だけではなく、下調べをしたり情報教育に詳しい道德の専門家にアドバイスを受けてたりして、なんとか原稿にした。しかし、このテキストがセミナーでどのように使われるかというイメージがはっきりしていなかったので、編集者にはご迷惑をおかけした。それでも、何度かの会議を通して、セミナーのイメージが形作られ、他の委員さんやC E Cの方たち、編集の皆さんのレベルの高い見識のおかげで、私自身が大変勉強になり、啓発されたのである。セミナーの成果というよりも、まず、私が学ばせていただいて、得をしたテキストづくりであった。

いよいよテキストが完成した。すばらしい出来ばえに感心した。こんな素晴らしい企画に私も関わったのかと貢献はあまりしていないのにうれしくなった。同時にセミナーをどう進めるのかという心配も生まれてきた。結局不安は的中し、一人でセミナーをすることに決まった。場所は埼玉県の新座小学校である。初めてでどのように進めて良いのか分からなかったので、他の委員さんたちのプレゼンを送ってもらい参考にした。それぞれテキストは使うが進め方については独自だったので、私も進め方を考えることにした。

2. 新座小学校の子どもたちとのセミナー

(1) ケータイやネット社会は必要不可欠

子どもたちのセミナーでは、テキストに入る前に、光と影の話をした。光の部分だけを見るのはよくないが、影の部分だけを強調するのもよくないという話である。これは、ケータイの影の部分に強調し、排除優先の気運が強い昨今に危惧を感じているからである。子どもたちが長じた時には、ケータイやネットが、必要不可欠なものになっているのは間違いないからである。子どもたちが大人になった時の社会は、ケータイやネットがないと生きていけない時代なのである。ケータイ いじめ、ケータイ 出会い系、ケータイ 中毒、というような影の面が強いが、子どもたちには、もっと明るく、正しく、便利に使って欲しい、というスタンスでセミナーをした。

(2) 3つのポイント

テキストをどのように使うかを考えて、ただ順番にページを追ってだけでなく、わかりやすいポイントを軸にしようと考えた。そこで、テキストの内容をK J法で分類して、最終的に3つのグループに分けた。

顔は見えない(匿名性の危険)

使い方を知らず(知らないことで巻き込まれる危険)

だめなものはだめ(実社会でだめなものはネット社会でもだめ)

(3) 立派だった子どもたち

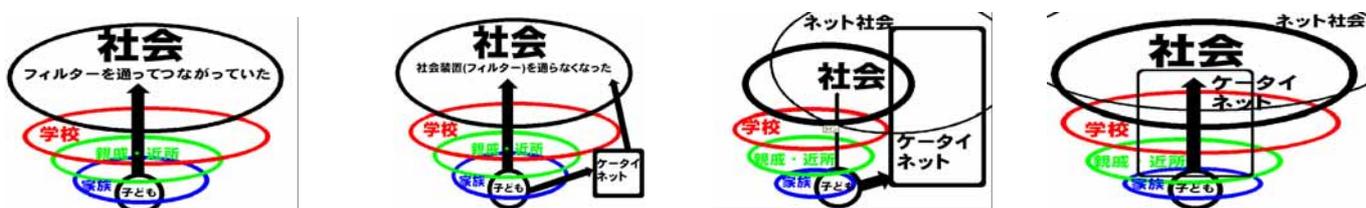
さて、いよいよ子どもたちと対面である。5・6年生全員が広めのスペースに集合した。職業柄たくさん子どもたちの前に立つことは慣れてはいるが、やはり、他県・他校の子どもたちである、CEC関係者の皆様にもおいでいただいて応援していただいたので心強かったが、少し緊張をしてのスタートだった。始まると、いつの間にか心配や緊張はどこかに飛んでしまった。というのは、子どもたちがとても熱心に聞いてくれたからである。私の話が中心だったが、発表する場面や書く場面もあった。聞くことだけでなく、書いたり発表したりすることにも熱心だったのである。セミナー講師としては、とてもやりやすい立派な子どもたちであった。内容が多すぎたかとか早口だったなとか、反省する事しきりであるが、目をきらきらさせて聞いてくれた子どもたちに、心より感謝すると共に、子どもたちの心を引きつけた素晴らしい仕様のテキストを作った皆様にも感謝を申し上げたい。

3. 新座小学校の保護者とのセミナー

(1) ネット社会の図

保護者向けのセミナーでは、テキストに入る前にネット社会の説明をした。その折りに、ネット社会の図を提示して説明をした。この図はわかりやすかったようである。是非、人のネットワークの中に、ケータイやネット社会を取り戻そうというアピールをした。

人のフィルターのある社会 社会装置を通らなくなった ケータイ・ネットが中心に ケータイ・ネットを社会装置に組み込む



(2) 熱心だった保護者の皆様

保護者の皆様は、子どもたちのセミナーを参観してから、保護者向けのセミナーになるのかと思っていたが、子どもたちが帰ってから同じ場所で、別々にすることになっていた。保護者向けのテキストは、子ども向けのテキストに保護者向けを追加してあるので、子供用のテキストも一緒に見られるようになっている。家庭で、親子でテキストを見て話し合っって貰うように作ってある。保護者の皆様も、子どもたちと同様で、とても熱心に参加されていた。アンケートに答える様子や質問にもそれは現れていた。ありがたいことであった。

4. 勤務校でのセミナー

(1) 学校公開でのセミナーが決まる

セミナーを終えると、校長としては他の学校でセミナーを開いて自分の学校でしないのはおかしいのではないかと、思うのは当然のことである。そこで、CECにお願いすると、保護者向けのテキストなら4～6年までの200部用意できるということだったのでお願いすることにした。学校でも、学年主任が計画してくれることになった。結果的には保護者向けのセミナーもあるので、3日間の学校公開期

間の実施することとなった。

(2) 全校朝会での情報モラルの話

ケータイ禁止が話題になり、国も都も情報モラルの通達や指示を次々と出す動きになってきて、「ケータイ・ネットは明るく正しく便利に使いましょう派」の私としては、憂慮すべき事態になってきた。本校でのセミナーまで時間があつたので、まず、全校に情報モラルの話をしようと考え、週明けに行われる全校朝会で、子どもたちに話をすることにした。1年生から6年生までを対象だが、4～6年生向けには、セミナーをする予定なので、低学年向けの内容とした。5分から10分程度の時間なので、2週間に分けての話であった。

(3) うれしい感想

4年生で1回、5・6年生で1回、計2回のセミナーをした。新座小学校の子どもたちのように、熱心に聞いてくれるかと心配をしていた。また、1時間のものを45分に短くした分、駆け足になるのではとも心配した。駆け足だったことは否めないが、子どもたちはよく聞いてくれた。4年生の担任が、CECのアンケートの裏に、感想を書かせてくれた。4年生なのに、とてもよく内容を理解し、今後の自分の行動にまで言及してあつたものが多かつたので感動した。何より、ケータイは怖い物という感覚ではなく、正しく使えば便利な道具という受け止め方をしていた子どもが多かつたのがうれしかった。

(4) 透明人間症候群

保護者の皆様も参観が多かつた。学校公開中で、他の全学級も授業を公開したので、子ども向けのセミナーの参観や保護者向けのセミナーに全部参加したという方こそ少なかつたが、延べ人数にするとかなり多かつた。このセミナーで説明に使つたのが、先に述べたケータイ・ネット社会の図と「透明人間症候群」である。全校で話をした折りに、ケータイやネット社会は姿形が見えない透明人間のようなもの、見えないことをいいことに悪いことをするのはよくないと話をしたが、一人の低学年の男の子が、「透明に人間なつてみたい!」と言つたのである。この子を説得するために、透明人間になつても良いことができるかと説明しようと考えた。しかし、愕然としたのである。透明人間になつてする良いことが一つも見つからなかつたのである。良いことをするのに透明である必要などないのである。逆に、悪いことならいくらでも見つかるのである。ケータイ・ネット社会の匿名性・秘密性は人間の悪の部分、魔の部分を引き出すツールだつたと気づいたのである。そこで「透明人間症候群」と名付け、保護者向けの説明に使つたのである。企業の方や報道関係者にも参観していただいたが、ネット社会の図と「透明人間症候群」の話は興味を持たれたようであつた。

5. 感想と課題

1時間のセミナーでは内容が多すぎてかえつてわかりにくいという感想もいただいている。確かにテキストが内容豊富なので盛りだくさんである。セミナーを何回かに分けて、残りを当該学校の担当者が行う方法もある。この方法は、当該学校の担当者の育成にもつながり、よそから来た「専門家」の話ではなく、学校の先生が詳しく頼りになるという成果が生まれるかもしれない。テキストをコンパクトにするのも方法かもしれない。1校時(45分)で無理なく行える内容のバージョンにしたり、数校時分

に分けて指導したりするバージョンを作るのもよいかもしれない。

また、テキストに書き込む時に、紙質がじゃまをして子どもたちの鉛筆では書きにくかったようだ。部分的に紙質を変えるなどの配慮が必要である。

最初に書いたが、私自身は大変勉強になり、刺激になった。来年度の本校の「情報モラル年間指導計画」作成に着手したのも、このプロジェクトに参加したからである。新学習指導要領の解説の文言だけでは、情報モラルは絵に描いた餅、いや、絵にも描かれないうちに流されてしまう危険性をはらんでいて感じていたが、ではどうすれば良いのかが、はっきりしていなかった。この事業に参加させてもらい、勉強させて貰ったおかげで、来年度以降の自分の責務となすべき事がはっきりしたのはありがたいことであった。

1. イマドキの子ども

自分が子どもの頃は世の中になかったのに、気がつけば身近なものになり、今の子どもたちが触れているものに、パソコンと携帯電話がある。他にもデジカメ、高性能な家庭用ゲーム機、地デジ、カラオケ、コンピこと、思いつくだけでも色々。「今の子どもたちは便利なものがたくさんあって良いなあ」と感心する一方で、「うちの子は大丈夫?」「どんな使い方をしているの?」と不安が頭をよぎる。Web サイトが関連する詐欺や事件のニュースを見るたび、世の中にたくさんの被害者と、「どうしてうちの子が?」と悲しむ家族がいることに思いを馳せる。

今の子どもたちに携帯電話やパソコンを使わせないようにするのは難しい。便利で楽しい道具だと知っているから、自分は持っていなくても友人から借りて使うようになる。「友達はみんな持っている」は買う理由にならなくても、「塾の行き帰りに必要だから」「宿題の調べ物に必要だから」と言われると親も納得して買う。その瞬間から便利の影に危険を伴っていること、それは大人も想像できないようなものであること、インターネットの世界に閉じた話ではなくて実生活にまで影響するものであることは、今や誰しも耳にする時代になった。それだけ被害の事例が明らかになっている証である。では、そんなやっかいな道具・世界から子どもを遠ざければ済む話なのだろうか。

2. テキストとセミナーへの想い

今回テキストを作成し、セミナーを行った委員は、インターネットを利用する子どもたちが危険な被害に巻き込まれないためにどうしたら良いかを、それぞれの仕事上の立場と、親としての立場から検討してきた。パソコン・携帯電話・インターネットを安全に使い続けるためのルールとマナーを「どうやって指導するか」工夫する一方で、「どうやって親子で自立的に守れるようにするか」考えて形にしたのが、今回のテキストとセミナーである。子どもたちが楽しく読み進めるようマンガと事例を多用し、保護者向けセミナーではワークショップ形式で身近な事例を話しあったり、フィルタリングの設定方法などを覚えて頂いたりした。最新の情報モラルを、「習うもの」から「自分たちで考えて守るもの」にした、そうやってほしいという思いで活動してきた。

そんな委員の中で私の立場はというと、インターネットプロバイダ事業を営む企業の社員である一方、家庭では小学校高学年の子どもがおり、塾通いに必要だからと携帯を買い与え、宿題に便利だからと家のパソコンを使わせる母親である。使い始めた当初に一通り使用ルールを伝え、フィルタリング対策をした記憶はあるが、その後こまめに話し合っているとは言えない。アンケート結果分析から浮かび上がる平均的な家庭像にぴったり当てはまってしまった。幸い今のところテキストに事例があるようなトラブルに巻き込まれたことはないが、情報モラルに詳しい委員、学校で日々の生徒指導に取り組んでいる委員から最新のトラブル事例を学び、テキストが世に出る以前に我が家で話題にすることができたのは役得であった。時々学校から同様のリーフレットを持って帰るが、今回作成したテキストほど具体的な事例と対策にあふれたものはなく、時々読み返している様子を見るとうれしくなる。

我が子と同年代の子を持つ母親仲間が集れば、いつまでも携帯画面から目を離さない子供たちを横目

に、「わかってはいるけど、今更言っても聞かないし」「別に今のところトラブルがないから」「機械オンチだから難しいことは苦手で」という言訳が並び、私も自分の職業を棚に上げて同調していることがないわけではない。保護者同士の横並び意識を気にするからであるが、子どもに何かあった時にはこれが結構パワーを発揮したりする。保護者向けセミナーの企画段階で、講師と保護者が1対1でなく、保護者間の対話を促し、つながりが密になる形式を希望し、ワークショップで狙いどおりの効果を目の当たりにできたのも、委員として参加できてうれしかったことの1つである。

3. 何のための情報モラルか

2001年に策定されたe-Japan戦略により日本はブロードバンド通信網の整備、電子政府の推進に取り組み、その後IT利活用の促進により「2005年までに世界最先端のIT国家を実現」することを目標にしてきた。目標の一部が達成された後、「2010年いつでも、どこでも、誰でもITの恩恵を実感できる社会の実現」、そして2010年を待たずに「デジタル新時代に向けた新戦略」という緊急対策が議論され始めたところである。米国オバマ新政権の主要施策の1つは「技術・イノベーション戦略」であり、韓国イ・ミョンバク政権は昨夏に「ニューIT戦略」を発表した。我が家には関係ないんじゃないの？なんてのんびり構えている間にも、世界はITによる構造改革を目指し、日本も取り残されないよう頑張っている。その日本の次世代を担う人材が、IT社会の入り口で危険に晒されているなんて変だし、最初の一步を踏み出せないでいるのはもったいない。親なら誰でも、自分の子どもに平和で幸せな生活を望み、豊富な職業選択肢の中から本人に向けた仕事に就いて豊かな生活を送ってもらいたいと思う。

食品添加物、欠陥商品、薬物汚染といった危険に対して、インターネットは私たちの安全を守る大切な情報を届けてくれるインフラになりつつある。活用できるか否かで自分と家族の安全と平和が左右されるなんて不公平だと思うが、実際世の中はそうなりつつある。デジタルデバイドが解消されるにつれ、多くの行政サービスもインターネット経由で提供される時代がすぐそこに来ている。大手企業や一部のIT企業のみならず、比較的IT武装が遅れていた中小企業や農林水産業も、インターネットを活用した生産・管理・販売は当たり前になったと言われる。インターネットの活用なんて、我が子にはまだ先のことと思っていても、数年のうちにそれが必要になる。就職活動だって携帯電話やメールアドレスがないと、面接まで辿り着けない時代になっている。

「自分が子どもの頃はそんなことなかった」「そんなものなくてもこれまで立派に生活しているじゃないか」という保護者もいるだろう。だが果たして「知っていたらこんな目に遭わなかった」「親の目の届かないところでこんなことしていたなんて」と後悔するまで、インターネットの影の部分を知らずにいるとしたらどうだろうか。委員は、子どもの世界で今何が起きているかを保護者が知るきっかけになればと、テキスト前半ページ上部に「あなたが被害者/加害者にならないために」「あなたが加害者になってしまったら」に記した。マンガに出てくるのが自分の子どもだったらと想像し、家庭で携帯電話やインターネット利用のルールを話し合う機会に、ページを開いて頂けたら委員としてうれしい。そしてルールやマナーを確認したら、我が子がネット社会を上手に歩いてゆけるよう、表紙イラストのように保護者がナビゲートして頂けたらと思う。

4 . セミナーを終えての感想

最後に、セミナー開催校の先生方と、参加した保護者の皆さんと子どもたちに感謝したい。セミナー中、普段の携帯電話の使い方など立ち入った質問を子どもたちとやりとりし、彼らの発言内容に気を揉んだ先生も多かったことと思う。必ずしも全員が持っているとは限らない携帯電話とパソコンの使い方を、対象学年全員に話すことは、一部の子どもには理解が難しかったかもしれない。外部講師を迎えての保護者向けワークショップも、事前準備や当日の案内など、先生方にはご負担だったと想像する。その後の生徒指導や、保護者や地域との良好な関係作りの中で、セミナーを開催したことが活かされているれば、委員の想いが現実となったようでうれしい。今後、Webサイトからダウンロードした「親子のためのネット社会の歩き方」を見て、セミナー開催を検討する学校・団体もあると思う。ぜひセミナー内容の相談や、テキストへの意見を事務局へ寄せて頂くことで、より良い内容へと改善を積み重ねていければと願ってやまない。

1. 情報モラル指導の場

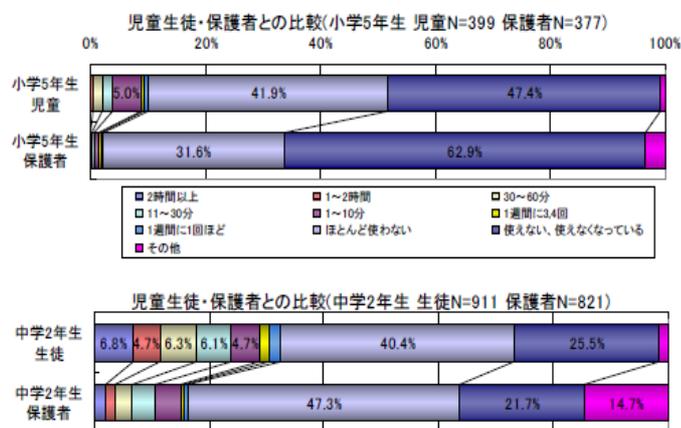
学校における情報モラル指導の必要性は、平成11年に文部科学省から出された「インターネット活用ガイドブック」の頃から、影への対応として示されてきている。これは、学校の教育活動で、積極的にネットワークを利用して効果的な学習をすすめ、生きて働く力としての情報活用能力をどう育てていくかという、教育課題としての対応であった。

しかし、インターネットの普及とともに、活用が広まり光の部分を楽しむようになるのと同時に、影の部分での問題も起きてきた。さらに、パソコンでのインターネット(E-mail、Web)から、携帯電話での、インターネット利用と変化し、いつでも、どこでも、という便利さが強くなってきたのと同時に、携帯電話ならではの影の部分に起因する問題も出てきた。このころから、携帯電話は、電話としての機能よりも、ネットワーク端末としての機能が重視されるようになり、ケータイと表記されることも出てきている。こうなると、教育課題としてのネットワーク活用は、社会課題にもなっているのである。

こうした変化を受け、「子どものケータイ禁止」が論議されている。ニュースなどでは、「学校への持ち込み禁止」ということで文部科学省から通達が出されたことも報道されているが、同時にこの通達では情報モラル指導への取り組みをきちんとすることが書かれているが、そのことはあまり触れられない。学校から携帯を閉め出すだけで解決する問題ではないことは、誰もがわかっている。学校での教育課題として、携帯にどうつきあうかという指導をしていくことも欠かせないのである。しかし、社会課題となっている今、学校だけの指導ではなく、家庭との協力の上での情報モラル指導が求められている。

携帯電話の子供の利用状況の実情を親は知らないという状況もアンケート調査の結果からは出ている。(グラフ1 プロフ、チャット・掲示板の利用時間(1日)児童生徒・保護者間比較 児童生徒のケータイ所持と使用実態に関する全国調査 http://kids-ktai.jp/pdfs/2009_K3enq.pdf)

こうした親と子で利用の状況の認識が異なる中では、今回の「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」は、学校での情報モラル指導を、保護者にも知ってもらい、学校と家庭の共通の課題として考えていく機会づくりとして、大変有意義なものであると思う。



グラフ 1

プロフ、チャット・掲示板の利用時間(1日)の親子の比較

2. 糸満市光洋小での親子のためのネット社会の歩き方セミナー

沖縄県糸満市の光陽小学校で行われた、親子のためのネット社会の歩き方セミナーで児童向けを担当させていただいた。当日は、学校の公開日にあたっており、授業参観の中での授業であった。情報モラルの指導は、メディアを使う体験を通して、日常のモラル・判断を基に、メディアや情報社会の特性を知り、考えていくという形でよく行われている。しかし授業とは言っても、体育館に、5、6年生100名以上を対象にするということで、通常の授業とは異なる形態であった。セミナーテキストに沿って、

説明をしていくということも考えられたが、単に説明をする講義形式では、小学校 5、6 年生が、身近な問題として考えるのは難しいと思われた。そこで、講義形式だけではなく、メディアの利用や、情報社会で身の回りに起こる心配なことを取り上げ、情報社会やメディアの特性を説明した上で、問いかけて考える場面を作るようにした。

はじめに、携帯電話の特性として、電話ではなくパソコンと同じように使えることから、様々な問題ができてきていることを説明した。プロフ、学校非公式サイト(裏サイト)とは何か? どのような問題があるのか、掲示板は良い使い方もされていることを、事例を挙げて話をしたあと、周囲の友だちと話し合う時間をとった。全体の進行との関係で 1~2 分の時間しかとれなかったが、なかなか話さない子もいたが周囲の友だちとの会話も見られた。子どもの発言を求めることも考えられたが、人数が多かったので、私の方でスライドを見せ、必要な内容を押さえることにとどめた。ネットワークを使う良いところとして、言いにくいことが言えるということが言われるが、言いにくいことは言うてはいけないこともあるということを強調した。

さらに、犯罪にも巻き込まれている状況を話し、危ない面も持っていることを説明したところで、便利な面をきちんと使うためには、できることとやっていいことを考え、「できるけどやらない」ということが大切であることを話した。さらに、その危険から守ってくれる仕組みがあることを話したところで、周囲の友だちとの話し合いを持ち、私の方でスライドで確認をした。

最後に、公共の場でのマナーの問題を取り上げ、車内でのマナーモードと電源 OFF の説明をした。その後、周囲の友だちと、どのような場所で、どのようなことに気をつける必要があるかを話し合った後で、スライドを見せ、周囲の人の迷惑にならないようにすること、特にケータイならではの注意もあることを確認した。

掲示板はどう使う?

- 名無しさん(匿名)はない!
- だれにでも見られる
- 自分が話しているということが人にわかる
- わかっても良いように

責任を持とう!
良い使い方をしよう!

どうやって守る?

- 守るための仕組みを使う
 - フィルタリング
 - 迷惑メールお断り

どんなことに気をつけて使う?

- 人に迷惑をかけない
- マナーを守る

- 何が迷惑か?
 - ふつうと同じこと
 - ケータイだからのこと

3 今後の期待

情報モラルについて、親に語りかける内容と、子どもに語りかける内容は異なる。しかし、急速にネットワーク社会、それも「ケータイネットワークの社会」が広まり、発展していく中では、親も子どもとともに学ぶ事柄も多い。今回の親子を対象にしたセミナーでは、親に子どもの学習の様子を知ってもらい、その上で親としての関わり方を考えてもらうことができたことは大変よかった。ケータイの機能、ネッ

トワークのサービスは、まだまだ拡充していくことが予想される中で、今後も必要な研修形態ではないだろうか。

6. まとめ - 今後の課題

(1) 本年度の成果

「健全なネット社会の構築者育成」との理念の確認

平成20年度は、子どもたちの携帯電話利用を取り巻く環境に関心が高まると共に、教育再生懇談会の提言をきっかけに、「子どもに携帯電話を持たせるべきではない」という論調が高まった年であった。

しかし、情報教育の専門家や教師、保護者の中にも、「持たせなければそれですむ問題ではない」などとの意見もあり、賛否が分かれているところである。

本委員会においても、さまざまな議論を踏まえ、子どもたちに携帯電話やパソコンを持たせる持たせないにかかわらず、ネット社会のすばらしさを十分理解し、積極的に活用することを中心にすると共に、陰の部分も十分理解して、安全かつ適切に利用できる「健全なネット社会の構築者」として育てていくという教育理念を確認し、その理念の下でテキスト作成などの作業を進めることができた。

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の実施と保護者への啓発

新学習指導要領でも、総則と道徳等に情報モラル教育の実施が明示され、教員に対する啓発は積極的に行われている。反面、子どもたちの主なネット活用の場である学校外の保護・監督者である保護者に対する啓発活動は、対教師ほどには進んでいないのが現状であった。

本事業による「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の実施により、保護者が子どもたちの置かれている状況を理解し、家庭においても子どもたちを見守り、対話しながら、情報モラル教育を行っていく必要性を認識していただくことができた。また、保護者の具体的な対応のあり方についても、本セミナーで理解していただくことができた。

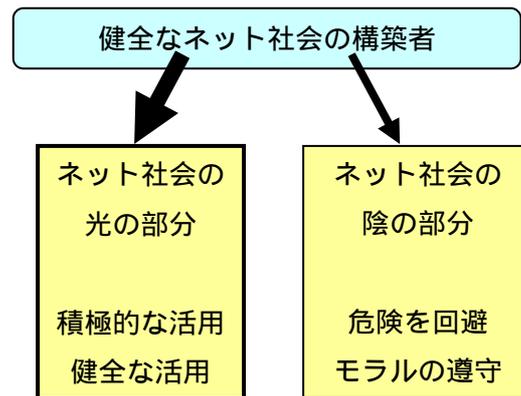
また、本セミナーをきっかけに、実施校の周辺地域等で、親子を対象とした情報モラルセミナーが開催されるようになり、家庭における情報モラル教育の普及に寄与することができた。

「子ども用テキスト」と「保護者用テキスト」の開発

従来から、子ども用の情報モラルテキストやデジタル教材は数多く提供されていた。しかし、保護者用の情報モラルテキストはほとんど存在せず、本事業で作成した保護者用テキストがその先駆けとなるものである。

「子ども用テキスト」では、少ない事例から応用可能な見方・考え方を獲得して他の事例にも転移できるようにすると共に、イラストを多用して興味を惹きわかりやすい構成とした。

「保護者用テキスト」は、前半に「子ども用テキスト」を合本として配置し、親子セミナー終了後に、テキストをきっかけに子どもと対話できるようにすることができた。また、



保護者に子どもたちの実態や、「緊急対策 - 応用可能な力 - 長期的人間教育」の3分野からなる、家庭における情報モラル指導のポイントと具体的な指導内容を示し、セミナー終了後も家庭で活用していただけのものとする事ができた。

セミナー・ノウハウの蓄積

本年度のセミナーは、開催校の要望に基づき、講師が独自に内容を構成して行った。このような取り組みの中で、各講師の努力により、子どもや保護者の興味・関心を惹き付ける工夫、子どもの積極的な参加を促す工夫、子どもの実感的な理解を促す工夫、保護者の継続的な情報モラル教育を促す工夫など、数々のセミナー・ノウハウを蓄積することができた。

また、これらの成果を、プレゼンテーションやワークシートなどの副教材として蓄積することができた。親子を対象とした情報モラル教材は少なく、これらを蓄積できたことは大きな成果である。

情報モラルに関する子どもと保護者の実態を明らかに

セミナー実施前後に、子どもたちと保護者に質問紙調査を行い、附録のとおり、情報モラルに関する子どもと保護者の実態を明らかにすることができた。この中で、家庭でのネット利用の約束事を決めていると思っている保護者と、それを約束事とは思っていない子どもとの意識の乖離があることなどの問題点も明らかになり、家庭での対応の必要性を訴えるセミナー資料とすることもできた。

(2) 今後の課題

複数の「推奨プログラム」の開発

平成20年度のセミナーは、基本的に学校側で自由にプログラムの大枠を決め、その希望に基づいて本検討委員会の委員が講師となって、各自工夫を凝らして実施した。しかし、学校側も親子での情報モラルセミナーが初めてだということなどもあって、例えばワークショップを希望しても、実際にはそれに必要な時間が確保されていないなどの困難な状況も散見された。

そこで、平成21年度は、平成20年度に実施した多様なプログラムの優れた点を生かすとともに、したり、さらにアレンジの要望を出したりできるようにすることが必要である。それによって、学校・講師の双方がより少ない負担で大きな効果を上げることが可能になるものと考えられる。

「改訂版テキスト」と「セミナー用教材」の提供

平成20年度セミナーの成果として、各委員が講師を務める際に作成したプレゼンテーションなどの「セミナー用教材」がある。各委員からのセミナー報告にあるように、本事業によるセミナーをきっかけに周辺地域等で同様の取り組みが行われており、今後もこのような親子を対象とした情報モラルセミナーの広がりを支援するため、各委員が作成したセミナー用プレゼンテーションやワークシートなどを提供することが期待される。

また、既に子ども用テキストと保護者用テキストがpdfで



インターネットからダウンロードできるように提供されているが、多方面から「冊子版テキスト」の配布を期待する声が寄せられている。希望する学校・PTA等に、「冊子版テキスト」が配布可能となるように、大幅増刷が必要である。なお、テキストについては、実際にセミナーで使用した結果、いくつかの改善すべき点が明らかとなっており、来年度改訂作業を行い、その改訂版を配布することが必要である。

これら「改訂版テキスト」と「セミナー用教材」の提供によって、本委員会の委員だけでなく、各学校の教員やPTAの保護者などが講師となって、情報モラルセミナーを実施しやすくなると考えられる。

「セミナーマニュアル」の開発

上記の「推奨プログラム」と「改訂版テキスト」、「セミナー用教材」が提供されると、親子の情報モラルセミナーを自主開催することが可能となる。しかし、それだけでは、専門的知見を有する本委員会委員が講師を務める場合のように、ポイントを押さえ、学校の特性や、子どもたちや保護者の実態に応じた指導を行うことは難しい。

そこで、セミナー前・セミナー中・セミナー後に、講師自身が行うこと、開催校に行っていただくこと、子どもにさせること、保護者・地域住民に行っていただくことの具体的ポイント・留意点を示した「セミナーマニュアル」が提供できることが望ましい。

もし、このような「セミナーマニュアル」が提供できれば、本事業が目指す情報モラル教育の要件を満たした、自主開催「親子のネット社会の歩き方セミナー」が可能になるであろう。しかし、この開発にはかなりの予算と労力が必要なため、実際に実行可能かどうかは検討が必要である。

本委員会の成果を受けてのデジタル教材「ネット社会の歩き方」の改訂

現在CECが提供し、広く好評を博しているWeb提供の情報モラル教材に「ネット社会の歩き方」がある。「緊急対策 - 応用力の育成 - 長期的人間教育」の3内容から構成することや、子ども用教材だけでなく保護者用も提供することなど、本事業の成果を、「ネット社会の歩き方」に反映し、改訂することができれば、さらに情報モラル教育に対する効果の向上を期待できる。

そのためには、コンテンツ開発のための予算措置も必要となるため、上記諸活動の予算も含め、確保されることを期待したい。



委員長 藤村 裕一

< 附 録 >

アンケート質問票

- ・【 児童・生徒向け 】
- ・【 保護者向け 】

アンケート集計結果

- (1) 全体実績
- (2) 小学校児童生徒アンケート結果
- (3) 小学校保護者アンケート結果
- (4) 中学校児童生徒アンケート結果
- (5) 中学校保護者アンケート結果

1. 子ども用アンケート

アンケートにご協力ください。【 児童・生徒向け 】 < 会場 >

セミナーやテキストの改良のために、ご協力ください。

に、レ をつけてください。()内は自由に書いてください。

1. あなたの学年、性別は？

小学校:()年生 中学校:()年生

男子

女子

2. あなたの知っていた言葉は？ (少し知っていることでもかまいません)

ブログ プロフ チャット 掲示板サイト 学校裏サイト フィルタリング
2ちゃんねる 出会い系サイト ネットゲーム www URL プロトコル

3. あなたの家庭では、コンピュータやインターネットを使うことができますか。

使うことができる 使うことができない

4. 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。

決めている 決めていない

5. あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

よく話している たまに話す 話したことはない

6. あなたは携帯電話を持っていますか。

持っている [小学校()年生から、中学校()年生から] 持っていない

7. 携帯電話は何が便利ですか。持っている人は、主にどういう使い方をしていますか？

[]

8. あなたは、携帯電話の使い方について家族で約束を決めていますか。

決めている 決めていない

9. あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

よく話している たまに話す 話したことはない

10. あなたは携帯電話やインターネットを使っていて、いやな思いをしたことがありますか。

ある ない わからない

いやな思いをしたことがある場合、どんなことですか。

[]

11. セミナーは楽しかったですか。

とても楽しかった まあまあ楽しかった つまらなかった

12. セミナーは、携帯電話やインターネットの安全な使い方に関心がありましたか。

思った 思わない よくわからない

13. 困ったときは、親や先生に相談しようと思いましたが。

思った 思わない よくわからない

14. セミナーを聞いて、これからやってみようと思ったことはありますか。それは何ですか。

[]

15. テキスト(冊子)はわかりやすかったですか。

ちょうどよい むずかしい かんたんすぎる よくわからない

アンケート集計結果

(1) 全体実績

アンケートは小学校3校、中学校3校の6校、児童生徒及びPTA等保護者に対し実施した。

児童生徒	参加者数	回収数	有効回答数	有効回答数 %
小学校児童	405	404	353	87.4
中学校生徒	420	410	406	99.0
計	825	814	759	93.2

保護者	参加者数	回収数	有効回答数	有効回答数 %
小学校保護者	156	135	118	87.4
中学校保護者	96	84	80	95.2
計	252	219	198	90.0

(2) 小学校児童生徒アンケート結果

回答者プロフィール(小学校児童)

小学校 1年	小学校 2年	小学校 3年	小学校 4年	小学校 5年	小学校 6年	未回答	計
4	1	4	16	179	149	0	353

	小学校回答数	%
男子	153	43.3
女子	189	53.6
未回答	11	3.1
計	353	100.0

問2. あなたの知っている言葉は？(複数回答あり)

小学校児童	ブログ	ブログ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2ちゃん ね	出会い 系サイト	ネット ゲーム	WWW	URL	プロトコル
男子 153名	109	25	55	70	66	12	43	72	102	13	9	3
%	71.2	16.3	35.9	45.8	43.1	7.8	28.1	47.1	66.7	8.5	5.9	2.0
女子 189名	153	52	88	116	127	22	71	127	120	27	15	1
%	81.0	27.5	46.6	61.4	67.2	11.6	37.6	67.2	63.5	14.3	7.9	0.5
男女不明	7	2	2	5	4	0	3	4	5	1	0	0
計 353名	269	79	145	191	197	34	117	203	227	41	24	4
%	76.2	22.4	41.1	54.1	55.8	9.6	33.1	57.5	64.3	11.6	6.8	1.1

問3．あなたの家庭では、コンピュータやインターネットを使うことができますか。

小学校児童	回答数	%
使うことができる	256	72.5
使うことができない	89	25.2
未回答	8	2.3
計	353	100.0

問4．家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。

小学校児童	回答数	使うことができる 256名 %
約束を決めている	116	45.3
約束を決めていない	137	53.5
未回答	3	1.2
計	256	100.0

問5．あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

小学校児童	回答数	使うことができる 256名 %
よく話している	18	7.0
たまに話す	157	61.3
話したことはない	78	30.5
未回答	3	1.2
計	256	100.0

問6．あなたは携帯電話を持っていますか。

小学校児童	回答数	%	持った学年	回答数	持っている (75名)%
持っている	75	21.2	小学校1年	1	1.3
			小学校2年	9	12.0
			小学校3年	15	20.0
			小学校4年	25	33.3
			小学校5年	19	25.3
			小学校6年	5	6.7
未回答	1	1.3			
持っていない	272	77.1			
未回答	6	1.7			
計	353	100.0			

問7．携帯電話は何が便利ですか。持っている人は、主にどういう使い方をしていますか？

(主な自由記述)

- ・塾や習い事の帰りなど、家族に電話
- ・緊急の時家族への連絡
- ・友達と電話
- ・メール(電話では聞きにくいこともメールなら聞きやすい)
 - 親にメール
 - 友達にメール
- ・インターネットを見る

- ・カメラ、写メ、画像交換
- ・曲を聴く
- ・着メロ
- ・ゲーム
- ・テレビ
- ・電卓
- ・スケジュール帳
- ・国語辞典

問 8 . あなたは、携帯電話の使い方について家族で約束を決めていますか。

小学校児童	回答数	持っている 75名 %
約束を決めている	49	65.3
約束を決めていない	25	33.3
未回答	1	1.3
計	75	100.0

問 9 . あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

小学校児童	回答数	持っている 75名 %
よく話している	9	12.0
たまに話す	45	60.0
話したことはない	20	26.7
未回答	1	1.3
計	75	100.0

問 10 . あなたは携帯電話やインターネットを使っていていやな思いをしたことがありますか。

小学校児童	回答数	353名 %
ある	24	6.8
ない	217	61.5
わからない	71	20.1
未回答	41	11.6
計	353	100.0

問 10 . で「いやな思いをしたことがある」と回答された方の主な自由記述

- ・チャットをしていて、他人に変な事を言われた。
- ・インターネットの掲示板で悪口を言われた。
- ・字を間違った人がみんなからすごくいじめられていた。
- ・嘘をつかれた。

問 1 1 . セミナーは楽しかったですか。

小学校児童	回答数	353名 %
とても楽しかった	175	49.6
まあまあ楽しかった	162	45.9
つまらなかった	8	2.3
未回答	8	2.3
計	353	100.0

問 1 2 . セミナーは、携帯電話やインターネットの安全な使い方に役立つと思えましたか。

小学校児童	回答数	353名 %
思った	324	91.8
思わない	7	2.0
よくわからない	14	4.0
未回答	8	2.3
計	353	100.0

問 1 3 . 困ったときは、親や先生に相談しようと思えましたか。

小学校児童	回答数	353名 %
思った	308	87.3
思わない	11	3.1
よくわからない	31	8.8
未回答	3	0.8
計	353	100.0

問 1 4 . セミナーを聞いて、これからやってみようと思ったことはありますか。それは何ですか。

(主な自由記述)

- ・分からない事があつたら、お母さんやお父さんに相談する。
- ・迷ったときは親とか先生に相談する。
- ・家の人と約束を決めて正しい使い方をしようと思った。いろいろな事がよく分かってよかった。
- ・危ないことはしない。
- ・コンピュータや携帯の使い方のほか、無料サイト、出会い系サイトなど悪いサイトが沢山あるが、そういうのに会ったときは家族や友人に相談する、ということが分かった。
- ・インターネットにはいろいろなサイトがあるので便利だけど、正しく安全な使い方で将来使えたらいいと思った。
- ・携帯やインターネットは役に立つだけでなく、怖いこともあると分かった。
- ・携帯やパソコンなどの悪い掲示板には書き込まないようにする。
- ・料金を考えて使う。
- ・ゲームはあまりやらないようにする。
- ・中学生になってもプロフなどはやらない。

- ・知らない人からメールや電話が来ても無視する。
- ・人を傷つけないようにしたい。人の嫌なことを言ったりしない。
- ・変なサイトは検索しない。
- ・勝手に変なサイトに登録したりしないように約束を決める。
- ・パスワードや名前を気軽に書かないようにする。
- ・物を勝手に買わない。
- ・時間を守る。
- ・パソコンやケータイのいたずらなどは止めようと思った。
- ・無料で騙されないようにしようと思った。
- ・ネットのプロフなどはこれからやるかも知れないので、気をつけたい。
- ・携帯を買ってもらったら、今日言われた事を守りたいと思った。
- ・今日学んだことを帰ってから兄妹に話す。お兄ちゃんがよく動画を見ているので、今日教わったことを教えたい。
- ・携帯電話を持ったら、病院など携帯電話を切らなくてはいけない時は切ろうと思った。
- ・チェーンメールは回さない。
- ・掲示板に悪口を書かれてもスルーする。
- ・いろいろ昔のことを調べてみたいと思った。調べ学習に使いたい。
- ・自分もメールやサイトを持っているので考えて使うことにする。
- ・まずは、家の人と今日のセミナーのことを話し合おうと思う。

問15 . テキスト(冊子)はわかりやすかったですか。

(12月のセミナーより質問に取り入れたため105名)

小学校児童	回答数	105名 %
ちょうどよい	96	91.4
むずかしい	2	1.9
かんたんすぎる	2	1.9
よくわからない	4	3.8
未回答	1	1.0
計	105	100.0

(3) 小学校保護者アンケート結果

プロフィール(小学校保護者)

年齢

回答者数	人	内訳	年代	人
20代	5	男性 6名	20代	
30代	32		30代	2
40代	67		40代	3
50代	9		50代	
60代	2		60代	1
未回答	3	女性 48名	20代	3
			30代	15
			40代	27
			50代	2
			60代	1
		男女不明		64
回答者計	118	回答者計		118

今回セミナーに出席されたあなたのお子さんの学年(小学校保護者)

学年	小学校
1年	24
2年	7
3年	10
4年	14
5年	47
6年	14
未回答	2
合計	118

問3. あなたの知っている言葉は?(年齢別/複数回答あり)

小学校保護者	ブログ	プロ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2チャネル	出会い 系サイト	ネットゲ- ム	WWW	URL	プロトコル
20代 5名	5	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4	2
%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	80.0	80.0	40.0
30代 32名	31	17	30	30	27	17	25	29	23	22	26	7
%	96.9	53.1	93.8	93.8	84.4	53.1	78.1	90.6	71.9	68.8	81.3	21.9
40代 67名	67	35	55	49	57	36	50	62	47	37	32	11
%	100.0	52.2	82.1	73.1	85.1	53.7	74.6	92.5	70.1	55.2	47.8	16.4
50代 9名	9	3	8	7	9	7	9	9	8	4	4	2
%	100.0	33.3	88.9	77.8	100.0	77.8	100.0	100.0	88.9	44.4	44.4	22.2
60代 2名	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0
%	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年齢不明 3名	2	1	1	1	2	1	0	1	1	1	0	0
計 118名	115	61	100	93	101	65	90	107	85	68	66	22
%	97.5	51.7	84.7	78.8	85.6	55.1	76.3	90.7	72.0	57.6	55.9	18.6

問3．あなたの知っている言葉は？（男女別／複数回答あり）

小学校保護者	ブログ	ブログ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルリ ング	2チャンネル	出会い 系サイト	ネットゲ ム	WWW	URL	ポータル
男性 6名	4	2	4	3	4	3	4	5	4	4	4	1
%	66.7	33.3	66.7	50.0	66.7	50.0	66.7	83.3	66.7	66.7	66.7	16.7
女性 48名	48	29	43	39	44	24	35	44	38	30	28	7
%	100.0	60.4	89.6	81.3	91.7	50.0	72.9	91.7	79.2	62.5	58.3	14.6
男女不明 64名	63	30	53	51	53	38	51	58	43	34	34	14
計 118名	115	61	100	93	101	65	90	107	85	68	66	22
%	97.5	51.7	84.7	78.8	85.6	55.1	76.3	90.7	72.0	57.6	55.9	18.6

問4．あなたの家庭では、お子さんがコンピュータやインターネットを使うことができますか。

小学校保護者	回答数	118名 %
使うことができる	90	76.3
使うことができない	21	17.8
わからない	1	0.8
未回答	6	5.1
計	118	100.0

問5．家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。

小学校保護者	回答数	使うことができ る 90名 %
約束を決めている	57	63.3
約束を決めていない	32	35.6
未回答	1	1.1
計	90	100.0

問6．あなたは、コンピュータやインターネットを使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。

小学校保護者	回答数	使うことができ る 90名 %
よく話している	9	10.0
たまに話す	67	74.4
話したことはない	13	14.4
未回答	1	1.1
計	90	100.0

問7．あなたのお子さんに携帯電話を持たせていますか。

小学校保護者	回答数	%	持った学年	回答数	持たせている(29名)%
持たせている	29	24.6	小学校1年	0	0.0
			小学校2年	0	0.0
			小学校3年	4	13.8
			小学校4年	6	20.7
			小学校5年	2	6.9
			小学校6年	3	10.3
			未回答	14	48.3
持たせていない	80	22.7			
未回答	9	2.5			
計	118	33.4			

問8．携帯電話を持たせている方は、持たせている目的・理由は何ですか。の主な自由記述

- ・塾、習い事関係で連絡がとれるように。迎えに行くのに便利。
- ・部活動などで遠出するから。
- ・引越しをし、家に電話をおかなかつたため。
- ・防犯・緊急連絡のため。
- ・家族と連絡を取るのに使用するため。
- ・友達が全員もっていて、子供がほしがったから。

問9．携帯電話を持たせている方は、あなたのお子さん一人あたりの使用料はどのくらいですか。

小学校保護者 携帯電話使用料		持たせている 29名%
2,000～3,000	10	34.5
4,000	3	10.3
5,000	1	3.4
6,000	4	13.8
7,000～8,000	3	10.3
9,000	1	3.4
15,000	1	3.4
基本料金	1	3.4
父親管理	2	6.9
未回答	3	10.3
計	29	100.0

問10．携帯電話を持たせている方は、使い方について家族で約束を決めていますか。

小学校保護者	回答数	持たせている 29名%
使い方を決めている	25	86.2
使い方を決めていない	3	10.3
未回答	1	3.4
計	29	100.0

「使い方を決めている」と回答されたかたの主な自由記述

- ・友だちとのメール等必要以外使わない。使う時は親と相談する。

- ・使用上の上限を決めている。
- ・月々の料金が5000円を超えないようにする。
- ・サイトは利用しないこと。
- ・音楽のダウンロードはしないこと。
- ・インターネットはつながない。
- ・わけのわからないサイトにアクセスしないこと。
- ・貸し借りはいけない。
- ・出会い系サイト、迷惑メールに注意する。
- ・長く通話しない。
- ・親が登録した相手としか通話、メールの送受信ができなくしてある。
- ・メールは夜10時までにする。
- ・有害サイトは利用しない。
- ・小学校のうちは電話のみ。(家族との連絡)
- ・親との連絡以外には基本的に使わない。
- ・知らないメールが来たらあけずに親に知らせる。

問11 . 携帯電話を持たせている方は、携帯電話を使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。

小学校保護者	回答数	持たせている 29名 %
よく話している	7	24.1
たまに話す	18	62.1
話したことはない	0	0.0
未回答	4	13.8
計	29	100.0

問12 . あなたのお子さんは携帯電話やインターネットを使っていていやな思いをしたことがありますか。

小学校保護者	回答数	持たせている 29名 %
ある	7	24.1
ない	13	44.8
わからない	5	17.2
未回答	4	13.8
計	29	100.0

お子さんがいやな思いをしたことが「ある」と回答された方の主な自由記述

- ・メールが頻繁に届く。
- ・チェーンメールが来た。
- ・悪口を書かれた。意地悪なチェーンメールが来た。
- ・友だちにネットゲームのパスワードを教えてしまったらしく、パスワードを書き換えられてしまい、使用された。
- ・架空請求が来た。

- ・音楽をダウンロードして、高額な請求を受けた。
- ・ゲームをして人に嫌なことをされた。
- ・クラスで流行っていたネットゲームにクラスの児童の実名が書き込みされていた。
- ・ゲームの中で、住んでいるところを聞きだされそうになった。

問13. セミナー全体についての印象はいかがですか。

小学校保護者	回答数	%
良い	73	61.9
普通	37	31.4
つまらない	1	0.8
未回答	7	5.9
計	118	100.0

小学生保護者のセミナーの印象の主な自由記述

- ・話がわかりやすくよかった。テキストは帰って子供と一緒に見なおすことにする。
- ・とてもわかり易い話で将来的に子供に携帯を持たせるとき、どんなところに気をつけなければいけないか、とても勉強になった。
- ・普段何げなく使用している便利な携帯が子供達にとっては1つまちがえると怖いものになる事がわかり、とても良かった。
- ・パンフレットがわかりやすい。
- ・資料がとてもわかりやすくまとめてあり、子ども達も理解できていた。いい部分悪い部分の比較を子ども達にさせることがたくさんあり、自分の身近の問題としてとらえることができたのではないか。又保護者もネットの問題やルールづけの大切さを痛感させられるような内容であった。
- ・子供セミナー・大人セミナーともにわかりやすかった。携帯を持たせたときの対処が分かった。
- ・インターネットはあまりよく分からないが、話を聞いて楽しい事だけでなく恐ろしい事もあり、子供がまきこまれてしまうのだと思った。
- ・プロフの怖さ等インターネットは便利であるが使い方を間違えると人の命をも奪ってしまう怖いものだと思感し、親が認識しておかなくてはいけないと思った。
- ・大人用セミナーはとても聞きやすくわかりやすかった。
- ・子供も熱心に聞いていた様で良かったと思った。
- ・親子で参加したがとても参考になった。
- ・もっとたくさんの子供が聞いた方がいい。中学生の子供にも聞かせたい。
- ・6年生になると親の話はなかなかきかないこともあるが、専門家のお話になると敬意を持って真剣にきくので子どもにも役立ったと思う。
- ・子どもたちに問いかけるところなど、話し方がひきこまれやすい。飽きずに聞いていられた。
- ・子どもへの問いかけ方や、わかりやすい説明がよかった。
- ・短い時間であったが要点がまとまっていて聞きやすかった。
- ・子ども達への誘惑がいっぱいある、という事を実感させられた。

- ・個人情報について改めて大事な事だと感じた。先生の話もわかりやすく、自分自身も勉強になった。
- ・子どもとともに日々勉強したいと思う。
- ・実例をあげての話はとてもわかりやすく、又怖さを知った。
- ・子どもとよく考えて話しあいたい。
- ・家族とのルール作りが必要だと思った。
- ・親よりも子供の方がPCに詳しくて私のほうが無知だったのでもっと話し合いしながら関心を持つべきなのだとわかった。
- ・話がわかりやすく良かった。テキストは帰って子供と一緒に見直すことにする。
- ・トラブルにあったときの対処方法も実例をまじえて教えてほしかった。
- ・大人向けのセミナーは実例などの紹介があり、理解しやすかったが聞きなれない言葉が多く複雑だと思った。
- ・このようなセミナーがあるとわからなかったなので、息子の中学校でもやって欲しいと思った。
- ・親の私がネットやパソコンに疎いので内容が飲み込みずらかった。

問14 . セミナーを受講して、これからすべきだと感じたことはありますか。それは何ですか。

(主な自由記述)

- ・自分をもっと情報を収集していかななくてはいけないと感じた。禁止でなく共に生きていく・・・本当にそうだと思った。
- ・もう少し関心を持たないといけないかなと思った。
- ・子供以上に親の勉強が必要。
- ・「～はダメ」ではなく「～しよう」と言うようにしたいと思う。6年生になると言葉で否定すると反発するので他の事でも使えると思った。
- ・子どもに携帯をもたせる際には家庭の中でいくつかのルールを決め、個人情報の大切さも併せてきちんと話しておきたいと思った。
- ・今現在小学生で携帯の事など何も考えていなかったが、実際に持たせた時に何が必要かを知ることができた。これから先、家庭でのルールを考える話しあいができればと思う。
- ・頂いたテキストを参考に家族とよく話し合い、ルール等考えていきたいと思う。
- ・家族で話し合うことの大切さを知ることができた。
- ・家に帰ってもう一度子供とインターネット、ケータイについて話し合おうと思う。
- ・知らないこともたくさんあったのでセミナーに参加してよかった。
- ・子どもとのよい関係ができていれば何もこわいことはないと思っていたが、知らないがためによくはない状況になることもあるとわかった。正しい情報を親子で共有することが大事だと思った。
- ・ネットはますます社会の中に大きく関係していくことの1つだと思う。1回で終わらず複数回に分けて講義して下さる事を希望する。
- ・子どもに携帯を持たすなら親の態度も大切。約束(ルール)をきちんと話し合っ持つべきだと思った。大きくなるにつれ難しいが友達ともルールが共有できれば良いと思う。

- ・もう一度子どもとパソコンや携帯の使用法について話し合う時間をとったほうがいいと思った。実際、渡してあるものにはフィルタリングなどをかけていないので。
- ・うちはインターネットをよく利用していて親がいる時許可を得てからやるというルールにしているが、これから先、間違っって変なサイトにアクセスしてしまい困った事になるなどという事も起こると思う。そんな時にはすぐに親やまわりの人に相談できる環境なら安心だと思った。そういった環境を作れるかどうかは親の手にかかっている事を痛感した。
- ・犯罪に発展するような場合もあるので、その時は罪になる事も教えていくべきだと思う。
- ・とにかく「face to face」家族と日頃からじっくり話し合う、向き合うことが大切だと思った。
- ・子供を信じられる親でいたいと思う。
- ・ネット社会の悪い事、良い事の境界が子ども達は十分に理解できていない事を知った。
- ・モラルについて子どもとまた話したいと思う。
- ・危険性や有害性ばかり注意するのではなく、安全な使い方を子供と話してみたいと思う。
- ・早速、パソコンにフィルタリングしたい。
- ・リスクの具体例を出すことは重要だと思う。しかしその対応策を具体例として出していただければ更に良かったと思う。子供に押しつけばかりせずによい方向に導ければよいと思った。
- ・ネット等を使うなら危機管理は自分でもしなければならぬことを伝えるべき。

(4) 中学校児童生徒アンケート結果

回答者プロフィール(中学校生徒)

中学校 1 年	中学校 2 年	中学校 3 年	未回答	計
116	269	21	0	406

中学校生徒	回答数	%
男子	215	53.0
女子	180	44.3
未回答	11	2.7
計	406	100.0

問2. あなたの知っている言葉は？(複数回答あり)

中学校生徒	ブログ	ブログ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタリ ング	2チャンネル	出会い 系サイト	ネットゲ ーム	WWW	URL	プロトコル
男子 215名	203	121	181	189	164	86	133	191	196	91	87	23
%	94.4	56.3	84.2	87.9	76.3	40.0	61.9	88.8	91.2	42.3	40.5	10.7
女子 180名	174	138	161	154	151	63	107	161	140	56	89	6
%	96.7	76.7	89.4	85.6	83.9	35.0	59.4	89.4	77.8	31.1	49.4	3.3
男女不明 11名	10	7	10	9	8	1	6	10	10	3	5	0
計 406名	387	266	352	352	323	150	246	362	346	150	181	29
%	95.3	65.5	86.7	86.7	79.6	36.9	60.6	89.2	85.2	36.9	44.6	7.1

問3. あなたの家庭では、コンピュータやインターネットを使うことができますか。

中学校生徒	回答数	%
使うことができる	343	84.5
使うことができない	61	15.0
未回答	2	0.5
計	406	100.0

問4. 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。

中学校生徒	回答数	使うことができる 343名 %
約束を決めている	116	33.8
約束を決めていない	226	65.9
未回答	1	0.3
計	343	100.0

問5．あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

中学校生徒	回答数	使うことができる
よく話している	15	4.4
たまに話す	190	55.4
話したことはない	136	39.7
未回答	2	0.6
計	343	100.0

問6．あなたは携帯電話を持っていますか。

中学校生徒	回答数	%	持った学年	回答数	持っている 181名 %
持っている	181	44.6	小学校1年	6	3.3
			小学校2年	4	2.2
			小学校3年	9	5.0
			小学校4年	10	5.5
			小学校5年	25	13.8
			小学校6年	33	18.2
			中学校1年	72	39.8
			中学校2年	20	11.0
			中学校3年	0	0.0
			未回答	3	1.7
持っていない	217	53.4			
未回答	8	2.0			
計	406	100.0			

問7．携帯電話は何が便利ですか。持っている人は、主にどういう使い方をしてしていますか？

主な自由記述（中学校生徒）

- ・親との連絡
- ・友達と電話
- ・塾の帰りに親に迎えに来てもらうための連絡
- ・緊急の時の連絡
- ・メール
 - 友達とメール
 - 違う学校の友達とメール
 - 親にメール
 - みんなとの交流
- ・インターネットを見る
- ・天気予報
- ・曲を聴く
- ・ゲーム
- ・テレビ
- ・人と人との距離をあまり感じない
- ・いつでも人と会話ができ、話したいことをすぐに伝えられる

問 8 . あなたは、携帯電話の使い方について家族で約束を決めていますか。

中学校生徒	回答数	持っている 181名 %
約束を決めている	110	60.8
約束を決めていない	70	38.7
未回答	1	0.6
計	181	100.0

問 9 . あなたは、家族で約束について話し合っていますか。

中学校生徒	回答数	持っている 181名 %
よく話している	18	9.9
たまに話す	107	59.1
話したことはない	53	29.3
未回答	3	1.7
計	181	100.0

問 10 . あなたは携帯電話やインターネットを使っていやな思いをしたことがありますか。

中学校生徒	回答数	%
ある	57	14.0
ない	280	69.0
わからない	51	12.6
未回答	18	4.4
計	406	100.0

問 10 . で「嫌な思いをしたことがある」と回答された方の主な自由記述（中学校生徒）

- ・好きな歌手やグループのことを悪く書き込まれた。
- ・チェーンメールがきた。
- ・書き込みでのいじめ。
- ・以前、自分の中傷的な事を書かれたサイトが作られた。
- ・掲示板やブログに悪口を書かれた。
- ・架空請求がきた。
- ・いたずらメール、迷惑メールがきた。
- ・ワンクリック請求にあった。
- ・パソコンがウィルスに冒された。
- ・ネットゲームの中で悪口を言われた。

問 11 . セミナーは楽しかったですか。

中学校生徒	回答数	%
とても楽しかった	171	42.1
まあまあ楽しかった	206	50.7
つまらなかった	21	5.2
未回答	8	2.0
計	406	100.0

問 1 2 . セミナーは、携帯電話やインターネットの安全な使い方に役立つと思えましたか。

中学校生徒	回答数	%
思った	246	60.6
思わない	54	13.3
よくわからない	95	23.4
未回答	11	2.7
計	406	100.0

問 1 3 . 困ったときは、親や先生に相談しようと思えましたか。

中学校生徒	回答数	%
思った	246	60.6
思わない	54	13.3
よくわからない	95	23.4
未回答	11	2.7
計	406	100.0

問 1 4 . セミナーを聞いて、これからやってみようと思ったことはありますか。それは何ですか。

(中学校生徒)

- ・何か困った事があつたら親に相談する。
- ・一人で考え込む事は止め、親に相談しようと思った。
- ・家族ともっと話し合った方がいいと思った。
- ・約束を決める。
- ・自分も約束を守り、携帯やパソコンを使うようにする。
- ・設定を親と決める。
- ・インターネットなど安全に使う。安全に使えば変なことにならない。
- ・危ないサイトに入らない。
- ・今日学習したことを心がけ、パソコンや携帯を使っていこうと思った。
- ・パソコンとか携帯で人の悪口とかは絶対書かないよう、注意しようと思った。
- ・ケータイは便利だけれど、使い方をしっかり分かってから使うようにしたい。
- ・サイトに登録するときは親に相談する。
- ・出会い系サイトなど危ないサイトには行かない。
- ・チェーンメールは回ってきても他の人には廻さない。
- ・「無料」という言葉に動かされないようにする。
- ・掲示板を使う時はよく考えてから書き込もうと思った。
- ・ケータイやパソコンはしっかり使い分ける。
- ・人の嫌がる事はやっぱしあかんと思った。
- ・友達が悪口を言わない。
- ・悪口とか書かれても「やめろ」とか書かない。
- ・勝手に人の写真をサイトに載せないようにする。
- ・危ないサイトには行かない。詐欺にあわないように注意する。

- ・ネットいじめなどを行っている人がいれば、注意するよう心懸けたいと思う。
- ・今日のセミナーで加害者になると大変だなと思った。加害者にならないように気をつかう。
- ・悩んだら電話する。
- ・フィルタリングをしたり、自分が法律違反をしていないか確かめる。
- ・インターネットの対応の仕方を変えようと思った。
- ・良い情報か悪い情報かを自分で見極める。
- ・変な架空請求などがきたりしたら、冷静になって考えること。
- ・チェーンメールに悩んでいたたり、悪口メールとかで困っていたので、テキストに書かれているサイトに申込んで見たいと思った。
- ・占いなどは今まで安全だと思っていたが、生年月日などを書き込むだけで悪用されると知って驚いた。これからはいままで以上に気をつけたい。

問15 . テキスト(冊子)はわかりやすかったですか。

(12月のセミナーより質問に取り入れたため215名)

小学校児童	回答数	215名	%
ちょうどよい	181		84.2
むずかしい	7		3.3
かんたんすぎる	13		6.0
よくわからない	7		3.3
未回答	7		3.3
計	215		100.0

(5) 中学校保護者アンケート結果

プロフィール(中学校保護者)

年齢

回答者数	人	内訳		人
20代	0	男性 5名	20代	0
30代	7		30代	0
40代	66		40代	3
50代	7		50代	2
60代	0		60代	0
未回答	0	女性 75名	20代	0
			30代	7
			40代	63
			50代	5
			60代	0
		男女不明		0
回答者計	80	回答者計		80

今回セミナーに出席されたあなたのお子さんの学年(中学校保護者)

学年	中学校
1年	51
2年	12
3年	8
未回答	9
合計	80

問3. あなたの知っている言葉は?(年齢別/複数回答あり)

中学校保護者	ブログ	ブログ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2ちゃん ね	出会い 系サイト	ネットゲ ーム	WWW	URL	プロトコ ル
20代 0名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代 7名	7	4	4	6	6	3	4	7	4	5	5	2
%	100.0	57.1	57.1	85.7	85.7	42.9	57.1	100.0	57.1	71.4	71.4	28.6
40代 66名	63	27	53	52	53	37	42	60	45	23	27	5
%	95.5	40.9	80.3	78.8	80.3	56.1	63.6	90.9	68.2	34.8	40.9	7.6
50代 7名	6	2	5	4	4	5	3	6	4	4	4	0
%	85.7	28.6	71.4	57.1	57.1	71.4	42.9	85.7	57.1	57.1	57.1	0.0
60代 0名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計 80名	76	33	62	62	63	45	49	73	53	32	36	7
%	95.0	41.3	77.5	77.5	78.8	56.3	61.3	91.3	66.3	40.0	45.0	8.8

問3. あなたの知っている言葉は?(男女別/複数回答あり)

中学校保護者	ブログ	ブログ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2ちゃん ね	出会い 系サイト	ネットゲ ーム	WWW	URL	プロトコ ル
男性 5名	4	1	5	4	3	5	3	5	4	5	5	0
%	80.0	20.0	100.0	80.0	60.0	100.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0	0.0
女性 75名	48	29	43	39	44	24	35	44	38	30	28	7
%	100.0	60.4	89.6	81.3	91.7	50.0	72.9	91.7	79.2	62.5	58.3	14.6
計 80名	52	30	48	43	47	29	38	49	42	35	33	7
%	65.0	37.5	60.0	53.8	58.8	36.3	47.5	61.3	52.5	43.8	41.3	8.8

問4．あなたの家庭では、お子さんがコンピュータやインターネットを使うことができる環境がありますか。

中学校保護者	回答数	%
使うことができる	69	86.3
使うことができない	11	13.8
わからない	0	0.0
未回答	0	0.0
計	80	100.0

問5．家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。

中学校保護者	回答数	使うことができる 69名 %
約束を決めている	45	65.2
約束を決めていない	24	34.8
未回答	0	0.0
計	69	100.0

問6．あなたは、コンピュータやインターネットを使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。

中学校保護者	回答数	使うことができる 69名 %
よく話している	14	20.3
たまに話す	46	66.7
話したことはない	9	13.0
未回答	0	0.0
計	69	100.0

問7．あなたのお子さんに携帯電話を持たせていますか。

中学校保護者	回答数	%	持った学年	回答数	持たせている 35名 %
持たせている	35	43.8	小学校1年	1	2.9
			小学校2年	0	0.0
			小学校3年	1	2.9
			小学校4年	3	8.6
			小学校5年	6	17.1
			小学校6年	3	8.6
			中学校1年	17	48.6
			中学校2年	2	5.7
			中学校3年	1	2.9
			未回答	1	2.9
持たせていない	44	55.0			
未回答	1	1.3			
計	80	100.0			

問 8 . 携帯電話を持たせている方は、持たせている目的・理由は何ですか。の主な自由記述

- ・ 防犯・緊急連絡のため。
- ・ 塾や習い事に通うのに帰りの連絡に使用。
- ・ 部活動などで遠征したり、合宿があったりするので必要。
- ・ 一人旅や日曜や祭日の待ち合わせなどにプリペイドカード式の携帯を使用。
- ・ 家族と連絡を取るのに使用。
- ・ 息子が持っていて夫が娘にも与えた。

問 9 . 携帯電話を持たせている方は、あなたのお子さん一人あたりの使用料はどのくらいですか。

中学校保護者 携帯電話使用料		持たせている 35名 %
3,000～4,000	6	17.1
5,000	4	11.4
6,000	7	20.0
7,000	1	2.9
2,000～8,000	3	8.6
9,000	2	5.7
12,000	1	2.9
基本料金	3	8.6
未回答	8	22.9
計	35	100.0

問 10 . 携帯電話を持たせている方は、使い方について家族で約束を決めていますか。

中学校保護者	回答数	持たせている 35名 %
使い方を決めている	32	91.4
使い方を決めていない	3	8.6
未回答	0	0.0
計	35	100.0

「使い方を決めている」と回答された方の主な自由記述

- ・ チェーンメールは友達からであってもまわさない。
- ・ 悪口や中傷は絶対に回したりしない。
- ・ インターネット使用禁止。
- ・ 有料サイトは使わない。
- ・ 必要な連絡以外は使わない。
- ・ 出会い系サイトをしない。
- ・ 学校には持って行かない。
- ・ 金額を決めている。
- ・ 使用はメールと電話のみ。
- ・ 勉強中は電源を切るかリビングに置く。
- ・ ネット接続は親の許可を得てからおこなう。
- ・ 曲をダウンロードしない。
- ・ メールや電話は食事のときはやらない。
- ・ 夜9時以降は使わない。

- ・友だちに貸さない。
- ・ロックをかけない。
- ・料金を考えて使う事。
- ・親が使い方が好ましくないと考えたときは使用を止める（取り上げる）。

問 1 1 . 携帯電話を持たせている方は、携帯電話を使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。

中学校保護者	回答数	持たせている 35名 %
よく話している	9	25.7
たまに話す	23	65.7
話したことはない	1	2.9
未回答	2	5.7
計	35	100.0

問 1 2 . あなたのお子さんは携帯電話やインターネットを使っていていやな思いをしたことがありますか。

中学校保護者	回答数	持たせている 35名 %
ある	12	34.3
ない	19	54.3
わからない	4	11.4
未回答	0	0.0
計	35	100.0

お子さんがいやな思いをしたことが「ある」と回答された方の主な自由記述

- ・先輩男子からしつこくメールが入ってイヤがっていた。
- ・他人のメールアドレスで送付されたことがある。
- ・自分のホームページに悪口を書き込みされた。
- ・チェーンメールがきた。
- ・母親の携帯をいたずらしていて請求書が（メール）届いた。
- ・架空請求がきた。
- ・携帯を友人に見せただけのつもりがアドレスを読み取られ、メールアドレスを本人の許可なく他人に広められた。よく知りもしない人からメールが来た。

問 1 3 . セミナー全体についての印象はいかがですか。

中学校保護者	回答数	%
良い	69	86.3
普通	7	8.8
つまらない	0	0.0
未回答	4	5.0
計	80	100.0

中学生保護者のセミナーの印象の主な自由記述

- ・これから携帯を与えるにあたり、よく話し合ってみたいと思う。
- ・話が分かり易く、面白かった。

- ・テキストが分かり易く書いてあったので良かった。
- ・自分が知らなかったことを勉強できたので良かった。
- ・これから社会に出る子どもたちには大切な事の一つで、勉強になった。
- ・もっと沢山の保護者の方にも講義をしてほしい。
- ・もっと時間があればいいと思った。
- ・私自身携帯もまだ良くできないのですが、テキストは解りやすいと思った。やっぱり親子はよく話すことが大切なんだなと思った。
- ・とても見やすいテキストで小学生の娘にも見せたいと思う。
- ・とてもわかりやすく現状を知るよい機会となった。これから子どもとしっかり話し合っていきたいと思う。

問14 . セミナーを受講して、これからすべきだと感じたことはありますか。それは何ですか

(主な自由記述)

- ・最初にきちんと子供と話すべきだと思った。
- ・知らない事ばかりでまず大人が知識を得ないといけないと思った。
- ・知っているようで知らなかったことが(言葉など)沢山出てきたが、それを知ることができたのが一番の収穫だった。
- ・子どもの方が、大人よりも使い方を良く知っているし、周囲から得てくる情報も多いと思うので使うときの約束を話し合う必要があると感じた。
- ・正しい使い方を子供に話すこと、子どもが相談できる親子関係をつくるのが大事だと思った。
- ・自分の身は自分で守るよう努力をおしまないことが大切だと思った。
- ・携帯はメリットデメリットを話し合った上でしっかり理解したうえで与える事。
- ・私も知らないことがあったので、子どもとテキストを見ながら話をして、ルールを学びたいと思った。
- ・ルールや約束事を子どもと話すこと。
- ・フィルタリングやルールの話し合いをすべきだと思った。是非したいと思う。
- ・パソコンのフィルタリングをすぐにしたいと思った。
- ・子ども達に「ダメでなく」安全に携帯電話、インターネットが使えるように教えていきたい。
- ・親もわからないではすまないと思った。勉強の機会がふえるとありがたい。
- ・履歴のチェックをしたい。
- ・子供とのコミュニケーションをもっととらなければいけないこと、良いもの、悪いものとの見きわめが大事。
- ・パソコンや携帯は便利な反面問題も多いので使わせっ放し(持たせ放し)にしないように気を付けたいと思った。
- ・一般常識すら守るべき規範意識が薄れている現代社会、新たな道具としてなくてはならなくなったネットについてのマナーや規範はなおさら積極的に広める必要があると感じた。

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」実施報告書

発行・著作 財団法人コンピュータ教育開発センター
〒108-0072 東京都港区白金1丁目2-7番6号
TEL 03-5423-5911 (代表)
FAX 03-5423-5916
<http://www.cec.or.jp/CEC/>

編集協力 株式会社クレステック



Center for Educational Computing